

大阪薬科大学報

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



2010年（平成22年）10月1日発行

61

C O N T E N T S

学報のリニューアル……………	広報委員長	土井 勝……………	1
学長からのメッセージ（「新薬学教育課程について」・他）……………	学長	千熊 正彦……………	2
教務部からのメッセージ（「大学ポータルサイトの導入について」）…	教務部長	石田 寿昌……………	3
学生部からのメッセージ（「社会マナーを改善しよう」・他）……………	学生部長	土井 勝……………	3
図書館からのメッセージ（「学生に愛される図書館を目指して」）…	図書館長	三野 芳紀……………	3
就任の挨拶……………	教授	松村 人志・他…	4
三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況……………	教授（特任）	梶本 哲也……………	6
平成21年度進路・就職状況（大学院）……………	キャリアサポート部長	藤田 芳一……………	7
第95回薬剤師国家試験の結果……………	薬剤師国家試験対策委員長	掛見 正郎……………	8
第56回公開教育講座……………	公開教育講座委員会		8
平成22年度市民講座……………	市民講座委員長	天野富美夫……………	9
学生相談室だより……………	学生相談室相談員	原 祐子……………	10
平成21年度学校法人決算及び平成22年度学校法人予算……………	事務局長	田部 信重……………	11
事務局だより 総務課……………			14
経理課……………			16
入試課……………			17
教務課……………			19
学生課……………			22
キャリアサポート課……………			24
図書課……………			33
教員研究業績（2009年）……………			25
薬用植物の紹介（コガネバナ）……………	薬用植物園長	馬場きみ江……………	34



本年1月、本学の広報活動に刷新があった。その背景には、大学の意志や方針が必ずしも適切に発信されてこなかったこと、広報誌に配慮が行き届かず、広く読まれる体をなさなかったことがある。学報も今号から装いを新にした。これを機会に、学報のあるべき態様について愚見を記し、各位のご批判を仰ぐこととしたい。

§ 創刊号の学生主義

「大阪薬科大学学報」の創刊は、1981年4月25日である。以来、刊行ペースに多少の乱れはあったが、平均して年2号の発行である。私は創刊号からすべて保管している。

創刊号を見ると、巻頭に堀田輝明学長（当時）の「創刊の辞」がある。筆者名がある記事として、教務、学生両部長の「新入生へのメッセージ」、就職部長の「卒業生就職状況」があり、事務局長の「大学予算の概要」、新任教員の「着任の挨拶」が続く。他は事実を記載しただけの報告記事で、「学長選考規程」、「事務部門移転」、「行事予定」、「人事異動」、「学位論文題目」等があり、最後が「研究業績一覧」である。かく並べれば、学報の中身は、三十年一日の如く変わらないかに見える。

「創刊の辞」を読んで考えさせられるのは、学報が学友会の申し入れを受けて発行され、学報をミニコミ紙と位置づけ学生の便宜に供し、学生と大学の連携を深めることを目的にしていることを、明瞭に謳っていることである。掲載が場違いに思える「学長選考規程」でさえ、学長自身の前文つきで、学生と交わした約束を果たす形で掲載されている。創刊当初の学報は、学生主義を旨とし、学生を主たる読者に想定していたのである。

§ 学報の役割

最近の学報は、さっぱり学生に読まれないと聞く。「読んでもらう（読ませる）」ために、講義時間に学生に配布するが、悲しいかな、ポイ捨ての運命である。改めて近年の学報を見ると、この哀れな末路は必然である。掲載が雑多で、焦点がはっきりしないのだ。黒々と活字で埋め尽くされた堅物な誌面と、記録のためだけの無味乾燥な誌面に、今時の学生が目をくれるはずがない。私が見るところ、近年の記事の多くは、教職員向けに書かれ、学生がなおざりにされている。総合大学は兎に角、100名程度の教職員を相手に、機関誌を発行する意味はあるだろうか。

機関誌が意義を発揮するには、その役割をはっきりさせておくことが、先ず大切である。本学の学報は、創刊当初の理念に立ち返り、マジョリティーでありステークホルダーである学生を、読者の中心に据えるべきなのだ。

【注】本学には「育友会報」と「同窓会報」があり、それぞれ会員向け情報誌となっている。

§ 編集の役割

機関誌の出来不出来は、編集で決まる。編集とは、内容を企画し、集まった原稿を加工して誌面に完成することである。編集は、責任を負うと同時に、権限を有する。しっかりした編集方針を持ち、方針に合わない原稿に対しては、改変を求めたり、割愛することがあってよい。

本学の学報は、毎年、同じような記事の繰り返しである。前例に倣っておけば無難だろうが、一向に変わり映えしない。記録に過ぎない記事が誌面の大半を占めるが、掲載を続けるか再検討すべきである。この際、無用な記事を取り払い、新規に開拓することだ。読者に受け入れられる記事とは、有用な情報であるか、読んで楽しいか、感得する何かを含むか、いずれかの場合だろう。

誌面の体裁は、学報の魅力を決める大事な要素である。集まった原稿を、統一も工夫もなく並べるだけでは、高品位な冊子に仕上がらない。段組みの取り方、フォントの選択から、罫線の使い方、色彩の用い方、表や図の配置に至るまで、組み版の巧拙は、誌面の出来を決定づける。大げさに言えば、組み版はある種の芸術であり、ちょっとしたセンスがいる。また、読みやすい魅力的な誌面にするために、色刷りにするなど、経費をかける覚悟も必要である。

§ 執筆の心得

文章に筆者の人格が現れる。言語活動は思考と内面の反映だからである。単なる情報伝達を別として、事実を羅列しただけの記事、型にはまった文は面白くない。読み応えある記事とは、主張や感得する何かを含むなど、筆者の人物を感じさせる場合でないかと思う。材料を持たずして何も書けないから、執筆は楽でない。

1) 記事の長さ：長い記事は敬遠される。指定の文字数を守っていただかねばならない。伝えたいことを整理し、ポイントを押さえ、簡潔に表現することが大切である。長い場合は、章に分け、表題をつける等の工夫が必要だろう。

2) 文体：新聞（全国紙）が手本である。無駄な言葉を削り、筋の通ったすっきり読める文が好ましい。持って回った文は、思考が曲がって理解しづらい。動詞を名詞化するなど、体言の多い文も読みづらい。執筆に推敲は欠かせない。読み手の立場で、すんなり頭に入るか自問してみるとよい。

本稿は学報作成に関与する方々を念頭に書いた。非礼を顧みず勝手放題を書いたが、読まれる学報に変えたいとの一念からである。諒とされよ。



学長 千熊 正彦

新薬学教育課程について

新薬学教育課程は5年目を迎え、本学薬学科の学生は9月から病院実務実習2.5ヶ月、薬局実務実習2.5ヶ月に出かけます。これは、大学と現場の薬剤師とが協力して、新しい時代に適応できる質の高い薬剤師の育成にあたるという、日本の薬学教育としては初の系統的な実務実習プログラムです。このプログラムが無事に修了して、本学の学生にはひとまわり大きく成長して大学に戻ってきて欲しいと願います。新しい薬学教育課程で育った薬剤師には、病院や薬局などの医療現場だけでなく、行政、大学、製薬企業など幅広い分野での活躍が期待されます。本学としては、広い視野と豊かな人間性を持ち、実践力のある薬の専門家を養成することを目標として学生の教育にあたる必要があると考えます。

本学5、6年次における教育プログラムでは、長期実務実習、薬剤師の専門性を高めるための講義や演習、そして特別実習（卒業研究）が設定されています。これらのうち、卒業研究は重要で、その意義付けとして、問題発見・解決型の薬剤師を目指し、応用力を伸ばすこと、医療薬学系研究者の養成につなげることなどが考えられます。卒業前にオリジナリティーのある研究課題に取り組み、実験データについて指導教員等と詳細に討論することで、薬学に関する総合的な力を身につけることができます。日本の薬学教育の伝統である卒業研究を充実させることが6年制教育課程においても重要であると思います。

大学の社会的使命は、教育と研究にあります。大学における研究の推進に大きく寄与しているのは、大学院生であるといってもよいでしょう。本学は、4年制の薬科学科と連繋する大学院修士課程を設置し、この4月には新教育制度下での大学院生を迎えました。日本の薬学が培ってきた基礎科学を基盤とする研究の伝統と実績を継承して、多様な分野で活躍する人材を養成するという薬科学科設置の趣旨を理解した、優秀な学生が大学院修士課程に進学してくれました。彼らには、製薬企業や化学関連企業の研究・開発技術者や大学教員などとしての活躍が期待されます。そして、彼らのなかから、本学の将来を担う人材が育つことを願っています。

新薬学教育課程の進行と併行して本学は平成21年度より、大阪医科大学、関西大学との三大学による「医工薬連携科学」教育システムの構築、さらに関西の五大学による「臨床医工学・情報学」領域の人材育成にも取り組み、本

学のエデュケーションの幅を拡げつつあります。これらの大学間連携を活用して、新しい薬学教育制度下での教育研究の発展に繋げ、本学の活性化や社会貢献を目指したいと考えます。

利益相反について

大学が産学官連携などを通じて研究成果を社会に還元することは、大学がその存在理由を明らかにし、大学に対する国民の理解と支援を得るという観点から、あるいは日本の産業界を活力あるものとする観点から重要であります。しかし、真理の探究を目的とし、研究成果の公表を原則とする大学と利益追求を目的とする企業とは、基本的な性格が異なっています。このような両者の性格の相違から、教職員が企業などとの関係で得る利益や発生する責務が大学における責任と衝突する状況が生じることがあります。このような状況は「利益相反」と言われています。教員が正当に大学の職務を遂行していたとしても、特定の企業から経済的利益を得ているために、研究において必要な公正かつ適正な判断が損なわれる、あるいは損なわれるのではないかと第三者から懸念されかねない状態ということもできます。

利益相反は「法律違反」とは異なった概念であると言われています。法律上は問題とならないけれども、大学が社会の信頼を得つつ発展するために誠実かつ適切に対応することが要求されるという性質の事柄も利益相反に含まれます。産学連携で行われることが多い医薬品開発のような目的指向型の研究の場合、大学教員が活発に研究活動を行えば行うほど利益相反の状態になることが予想されます。従って、あまり厳しく利益相反を排除すると、大学教員の社会貢献活動を萎縮させかねません。大学に求められるのは、研究者と企業間の利益相反について、適切に管理し、透明性を確保することであると言われています。本学でも、大学と社会との関係の在り方について議論を深め、利益相反に対する認識を共有化する必要があると考えます。

教務部からのメッセージ

教務部長 石田 寿昌

● 大学ポータルサイトの導入について

7月に新しく大学ポータルサイトというシステムを導入し、平成22年度前期試験の合格者発表を行いました。このポータルサイトでは自分の学業成績や授業時間割は勿論ですが、「休講・補講」「授業・試験関連情報」「大学からのお知らせ」のほか、「緊急連絡」「学生呼出・個別連絡」「教員からのお知らせ」などの情報をインターネットを利用して閲覧することができます。パソコンや携帯電話のメールアドレスを登録しておくと、大学から必要に応じて情報が発信されます。

なお、成績については携帯電話では見ることはできません。パソコンからのみ閲覧可能です。

このポータルサイトを積極的に利用し、自分の成績、履修状況、スケジュール等をきちんと把握し、学生生活をより一層充実させて欲しいと考えています。

学生部からのメッセージ

学生部長 土井 勝

● 社会マナーを改善しよう

社会常識に欠ける学生の行動に対し、本学が医療系の大学であることを理由に、世間からの苦情も手厳しいものがあります。特に通学バスの乗車マナーとバイク運転の交通マナーに、苦情が絶えません。

一時の一人の不心得は、先輩の恥、同輩の恥、後輩の恥、大阪薬大の恥と心得よ。

● 禁煙に取り組もう

タバコが健康に悪影響を及ぼすことは、医学的に裏付けられている。現在はキャンパス内の喫煙を3カ所に限る分煙だが、大学会館入り口付近で乱れが見られます。吸うも吸わぬも自分の勝手ではない。風紀を乱し、副流煙による受動喫煙で大勢が迷惑している。

平成24年度のキャンパス内全面禁煙まで、残り1年半である。早速、禁煙に取り組もう。

● アドバイザーを活用しよう

アドバイザー制度は、本学が伝統としてきた人間味のある制度です。成績通知がポータルサイトに移ったことで、学生とアドバイザーの接触が希薄になることを懸念します。

迷ったり困ったとき、アドバイザーを利用しよう（こっそり本音を言うと、忙しい教員には、度々押しかけられては迷惑なのだが、もっと教員を困らせてやろう）。

図書館からのメッセージ

図書館長 三野 芳紀

『学生に愛される図書館』を目指しています。皆様のご意見・ご感想などぜひお聞かせください！（館内アンケートボックスも可）図書館のサービス概要は、ホームページで確認できます。以下に、最近のニュースを紹介します。

● 電子ジャーナル充実

2006年から学術洋雑誌を冊子体から電子ジャーナルに順次移行してきました。2010年4月現在、約7,000タイトルの電子ジャーナルが研究室のパソコンから簡単に閲覧できます。教育・研究に大いに役立ててください。

● 医療系DVD充実

「病気の基礎知識：病気の成因・病態と治療」全10巻、「目で見える解剖と生理」全15巻などの最新医療系教材をはじめ「BONES II」など教養・娯楽関連の資料も充実。新着図書・DVDコーナー（受付カウンター前）でチェックしてください。

● 「教科書・参考書コーナー」新設

今年度から、4階に「教科書・参考書コーナー」を設置しました。1～5の各年次別の「教科書・参考書（各教員指定）」を1ヶ所に集めて配架していますので、学生からは「勉強しやすい！」と大変好評を得ています。

『図書館利用案内』を熟読し、図書館を大いに利用しましょう！



薬物治療学研究室
教授 **松村 人志**

この4月に大阪薬科大学の薬物治療学研究室教授に就任いたしました松村人志（まつむらひとし）と申します。「精神」と言われるものに興味を持ち、「脳と精神」を研究対象とする大阪医科大学の神経精神医学教室に入局して精神科医になりました。多くの患者さんにおいて、不眠と精神症状の悪化が並行して生じやすいことから、睡眠のメカニズムを研究したいと思うようになり、およそ9年間、大阪バイオサイエンス研究所にて睡眠・覚醒の制御機構に関する基礎研究にも熱中しました。いろいろと発見はありましたが、生理的な睡眠をコントロールして精神科治療に役立てるところまでは至っておりません。その後東亜大学に異動し、医療系の先生方ばかりでなく、文科系の先生方とも交流させていただき、大学や組織や文化というものについても学ぶことができたのは、新鮮な喜びでした。私の人生は、その時々私の強い興味に引かれるようにして、結果的に大きくチェンジし続けて、今日に至っております。今後は、大阪薬科大学と薬学という学問領域の発展のために、さらに医学・医療や社会の活性化と発展のために、自分なりの役割を果たしていきたいと考えております。



臨床実践薬学教育研究室
教授（特任） **長船 芳和**

この2月1日をもって、教授（特任）に就任いたしました。研究室は5名で、全員臨床実務経験者のためお互い情報交換ができるありがたい環境でいます。

昨年は非常勤講師として「臨床導入実習」に携わってきました。それまでは病院薬剤部の責任者として薬剤師の教育面にも力を注いできましたが、実際は教育の難しさを感じました。

例えば、医療安全にとって医薬品は重要な位置にあることを話してもすぐ理解できる学生は多くいません。

しかし、医療現場で周囲をよく観察するだけで、かつ教わることなく自然と理解が始まります。

従って、講義の中で折に触れて医療現場の情報を話すように心がけています。臨床教育は学外学習をする学生には重要であり、医療を理解するためにも必須です。

今後も薬剤師の業務は直接、患者の生命や健康に関与する重要なものであること、医療現場では薬剤師として意見が言える、常に変遷していく医療に自己研鑽を怠らないそんな薬剤師教育に少しでも寄与できるよう努力をしたいと思っています。

ご指導よろしくお願いいたします。



臨床実践薬学教育研究室
教授（特任） **花山 加代子**

このたび、平成22年2月1日付で臨床実践薬学教育研究室に教授（特任）として着任いたしました花山加代子です。

私は、昭和49年近畿大学薬学部薬学科を卒業し、関西医科大学付属香里病院薬剤部に入職しました。当時外来調剤は院内で行われ調剤に追われる毎日でした。4年後退職し、新しく開設される病院に薬局長として勤務することになりました。新病院ではカルテを用いて処方鑑査を行い、医師の処方意図を理解し服薬指導を行うようにしました。この時カルテを見るのは初めてで、カルテに用いられている英単語や略字、病名、病態、検査値、薬物療法など理解できず勉強の毎日でした。しかし努力の結果、疑義照会の内容も少しずつ変化し医師との信頼関係を築くことができました。86床の病院でしたが、医療スタッフとも密に連絡が取れ臨床を学ぶことができました。平成元年吸生会脳神経外科病院（305床）に移籍し病棟での薬剤管理指導に取り組みました。薬剤師がいれば「安心、安全」と理解されるには多くの時間と努力が必要でした。今後、35年間のこれらの臨床経験を生かし、本学での教育に努力していきたいと思っています。ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



臨床実践薬学教育研究室
教授（特任） 佐藤 健太郎

薬学6年制のスタートにより事前実習と実務実習の担当として、4月よりお世話になることになりました。薬学教育制度の大きな変革の時期にその場に関わることができることは大変光栄に思いますとともに、職務の重大さを思うとプレッシャーでもあります。卒業以来ずっと病院に勤務していましたので、今回まったく異なる職場環境に戸惑いましたが、やっと自分なりのペースが出来、他の先生方のご支援を頂きながらですが勤務に励んでいるところです。多くの薬学部、薬科大学が新設され薬剤師が急激に増加するなか、歴史ある本学ならではの薬学教育、薬剤師教育を確立し、薬剤師や薬学研究者をめざす学生たちに大阪薬大が選ばれるように、あるいは卒業生たちが就職した後「さすがに」といわれるような大学にしたいと思っています。そのためには我々臨床の現場で勤務してきた者と、研究を専門とされてこられた先生方との協働がポイントであり、そのシステム作りが重要と考えています。私は本学の卒業生でもあり、微力ながら理念である「豊かな人間性に基づく薬学教育」による新しい制度の中の大阪薬科大学づくりに貢献できればと思っています。



臨床実践薬学教育研究室
教授（特任） 鈴木 芳郎

平成22年4月より教授（特任）に就任させていただきました。よろしくお願いいたします。私は昭和49年に大阪薬科大学を卒業して、大阪大学病院へ研修生として入局しました。その後病院薬剤師として大阪大学医学部附属病院、大阪大学微生物研究所附属病院、公立学校共済組合近畿中央病院に勤務し、35年間過ごしてまいりました。その間、大学病院研修生の指導や薬学生の実務実習指導など、医療現場での臨床実践教育に長年取り組んでまいりました。また、薬剤師会や病院薬剤師会の活動にも積極的に参画してきました。

本年はいよいよ薬学6年制導入から5年目となり、実務実習が開始されました。本学でも5年次生が病院・薬局の実際の現場で実務実習を開始いたしました。私の一番大きな役割は、医療現場での臨床実践経験を生かして、事前学習も含めたスムーズな実務実習がより効果的に実施できるように支援することだと思っています。現在の医療現場では薬物療法がより複雑高度化し、6年制薬剤師の役割に大変期待が高まってきています。本学の学生がこれらの期待にこたえられる優秀な薬剤師に育成できますように、精一杯頑張っていきたいと思っています。



臨床実践薬学教育研究室
教授（特任） 新田 剛

4月1日付けで採用になり、5ヶ月が過ぎました。早速始まった「臨床導入実習」では「無菌操作」と「抗悪性腫瘍剤の調製」を担当しております。まだ大学の中もわからないまま一週間余りで講義と実習の準備を行い、48日間の導入実習がスタートし資料の修正を行いながら無事に終了したところです。現在は第Ⅱ期の実務実習施設へのあいさつ訪問やその他の準備に追われております。実習を行い学生時代は感じていなかった準備の大変なこと（当時の先生方の御苦勞がよくわかりました。）と実習で少しの変化があれば学生が「ワァーかわった」と感動してくれたことが印象に残りました。また講義中に居眠りする学生がいると眠らせないように、注射用シリンジへの針の装着やりキャップをさせる練習などを盛り込んで目を覚まさせることもしました。来年は今年の反省を踏まえて、すでに学んだ基礎薬学科目と臨床薬学との関連付けや医療現場の薬剤師の関わりに関心を持ってくれるよう楽しい講義・実習にしたいと思っています。薬剤師としての経験を伝え、育てていただいた母校への恩返しのため微力ながら努力する所存ですので宜しくお願いします。

教授（特任） 梶本 哲也

昨年度より、本学は文部科学省の支援を受け、関西大学、大阪医科大学と連携して「分子から社会までの人間理解」を目標に「医工薬連環科学教育システムの構築と社会還元」に関する教育プログラムを実施しています。

近年、薬学におきましても学問領域が拡大し、医学や工学を専攻する研究者との学術交流は、研究だけでなく教育の視点からも極めて重要になってきています。2006年より開始されました薬学の6年制教育は、病院・薬局での実務実習を必須科目としており、医学と薬学の連携を強く求めています。一方で、医療現場では、医師、看護師だけでなく、臨床工学技士など新しい資格を持った専門家が高度医療を支えるようになってきています。このような状況に対応すべく、医学、薬学だけでなく看護や福祉に関するテクノロジーにも精通した優れた人材が求められています。三大学医工薬連環科学教育研究機構では、そのような人材を育成する教育課程を構築し、先導的拠点を作ることを目指して活動しています。本稿では、この1年間、本学で開催・実施してきた活動を中心にその一端を紹介させていただきます。

まず、教育環境を整える必要がありましたので、昨年10月より、各大学にテレビシステムを設置し、遠隔講義を導入する試みを実施しました。昨年度は、本学からは「機能形態学1」と「生薬学2」の講義を関西大学に送信し、関西大学からは「福祉工学概論」、「機能性食品」、「社会環境適合材料」の講義を受信し、同時に大阪医科大学からは「医学概論」を受信しました。当初、技術的な問題が幾つか発生しましたが、講義の進行とともに全て解決されました。また、今年度前期には、本学から「応用放射化学」と「生薬学1」を配信し、「微生物学4」（関西大学）と「健康科学概論」（大阪医科大学）を受信しました。今年度の後期には、三大学で10講義が双方向で送受信されることになっています。これらの双方向講義につきましては、既に各大学で単位化できるようになっています。さらに、遠隔で受講している他大学の学生に配慮して、オフィスアワー（テレビシステムによる質問時間）も設定しました。



遠隔講義

次に、教育課程構築の参考意見を賜る目的で、7月3日にはシンポジウムも実施し、西山豊教授（関西大学・社会連携部産学官連携センター長）、北出幸夫教授（岐阜大学・連合創薬医療情報研究科長・先端創薬研究センター長）、梅津光生教授（早稲田大学・先端生命医科学センター長）をお招きし、各大学での医工、薬工連携事業の現状と将来への展望についてご講演頂きました。

最後に、本プログラムでは、「地域に生き、地域に育て

られる循環型教育システムの形成」を謳っており、それを実践するために地域社会への還元を行ってきました。昨年10月に開催されました本学主催の市民講座で三大学によるパネルディスカッションをさせて頂いたのを始め、「食と健康」のシリーズで2回の高槻家族講座を開催しました。家族講座では子供体験コーナーも設けて若い世代からの参加者も増えるように工夫し、第1回の講座では、(株)タニチのご協力で、寒天を使った水ようかん作りを、第2回の講座では、サンスター(株)のご協力でハミガキ作りを体験して頂きました。

今年度は、家族講座のシリーズを「食の楽しみ」に変更し、6月12日にグリコ栄養食品(株)のご協力を頂き、子供達に米粉を使ったカレーパン作りの体験をして頂きました。



高槻家族講座

これだけでなく、今年度は、7月31日に開催されましたオープンキャンパスに合せて化学オリンピック関連事業のイベント（「化学車」）を開催させて頂き、高校生11名が参加し、「イオンの定性分析」を体験して頂きました。また、8月2日には、阿武山中学校で開催されましたサマースクールに1講座を開設させて頂き、「物質の溶解と薬」について実験教室を実施しました。8月7日には、関西大学ミュージアムキャンパスで開催されました「わくわく実験科学教室」に参画し、「食品中の色素の分離」を小・中学生に指導させて頂きました。8月22～24日には、三大学が協力してJST（科学技術振興機構）の支援事業である「サマー・サイエンスキャンプ」を開催し、全国から多数の応募があった高校生の中から12名を選ばせて頂き、本学からも多くの先生方のご協力を頂き、「くすりを『知る』・『創る』・『活かす』」をテーマに薬用植物園見学、生薬成分のクロマトグラフィー、走査型電子顕微鏡による動・植物の組織や微生物の観察、製剤実習を行いました。



サマー・サイエンスキャンプ

以上、多くの活動をしてきましたが、今後も本学の発展につながるように尽力していきたいと考えております。ご指導とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

キャリアサポート部長 藤田 芳一

今春卒業した大学院博士前期(修士)課程修了者(34期生)の進路・就職状況について報告します。本学学生の進路・就職状況は昨年同様堅調に推移しています。大学院博士前期(修士)課程修了者の就職は100%で、特に薬業関連企業55.1%、病院19.2%、公務員14.1%等です。公務員への就職がここ数年間学部・大学院とも10%を超えているのが本学の大きな特徴の一つです。

薬学部は、4年制から6年制への移行に伴う、空白の2年間(平成22、23年度)を埋める求人増加が、保険薬局等を中心に顕著に表れてきていますが、製薬企業等では厳選採用が続いています。大学院博士前期(修士)課程2年次

生の就職率は、70.6%(H22.8.31現在)と順調ですが、キャリアサポート部委員会・キャリアサポート課では、学生へのキャリア教育、キャリアサポート(進路・就職支援)の更なる充実を図っています。多様化している学生のニーズ、価値観に沿った進路・就職先選定のために、キャリアサポート部委員、専属キャリアカウンセラー等を中心に学生一人ひとりの興味、能力、価値観に応じたきめ細かな対応に努めています。目まぐるしい環境の変化に迅速かつ的確に対応していく所存です。

表1は、平成22年度キャリアサポートガイダンス実施(予定)の状況です。



面接マナーガイダンス



グループディスカッション・トレーニング

表1 平成22年度キャリアサポートガイダンス実施(予定)

No	開催月	対 象	内 容
1	4/2	新入生保護者	就職説明会「就職状況・キャリアサポート部(課)の取り組みについて」
2	4/5	1年次生	新入生ガイダンス「夢をかなえるために!」
3	4/19	全学生	第1回公務員対策講座
4	4/26	5年次生	就職活動を始めるにあたって・実習前の諸注意
5	4/28	大学院1年次生	個人面談(進路意向確認)
6	5/10	全学生	第2回公務員対策講座
7	5/7,14,28	5年次生	個人面談(進路意向確認)
8	6/3	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(病院:がん専門薬剤師)について」
9	6/4	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(公務員)大阪府について」
10	6/11	全学生	第3回公務員対策講座
11	6/14	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(薬業関連企業)CROについて」
12	6/21	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(製薬企業)MRについて」
13	6/21~23	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」選考(個人面談)
14	6/25	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(製薬企業)研究について」
15	7/7	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」事前教育
16	7月	5年次生・大学院生	薬業関連企業研究所見学①
17	7月	5年次生・大学院生	薬業関連企業研究所見学②
18	7月	5年次生・大学院生	薬業関連企業研究所見学③
19	8月	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」実施
20	8月	4年次生(旧課程)	個人面談(進路意向確認)
21	8月	4年次生(薬科学科)	個人面談、キャリアサポートガイダンス「薬学生が進む職種のいろいろ」
22	8月	5年次生	実務実習にあたっての接遇(マナー・身だしなみ)について
23	9月	5年次生・大学院生	インターンシップ体験報告会〜パネルディスカッション〜
24	10月	1年次生	キャリアサポートガイダンス「知っておきたい大人のマナー」
25	10月	5年次生・大学院生	就活導入ガイダンス「どうやって書く!?エントリーシート、履歴書」
26	10月	2年次生	キャリアサポートガイダンス「知っておきたいコミュニケーションスキル」
27	10月	5年次生・大学院生	就活導入ガイダンス「まずここを押さえる!面接試験のポイント」
28	10月	5年次生・大学院生	就職内定者(薬業関連企業)を囲む会※大学院2年次生就職内定者との懇談会
29	11月	全学生	第4回公務員対策講座
30	11月	3年次生・4年次生	キャリアサポートガイダンス「プレゼンテーション、問題解決能力の育成」「薬業界の現状やミスマッチを起こさない就活」
31	11月	大学院1年次生	就職内定者(公務員)を囲む会※大学院2年次生就職内定者との懇談会
32	12月	全学生	第5回公務員対策講座
33	12月	大学院1年次生	模擬グループディスカッション
34	12月	5年次生他(全学年)	職種紹介学内企業セミナー(研究・臨床開発・MR職等)
35	1月	5年次生・大学院生	薬業関連企業対策学外(天満橋)ガイダンス・セミナー①②(土曜日開催)
36	1月	5年次生・大学院生	就職内定者(薬業関連企業)を囲む会※大学院2年次生就職内定者との懇談会
37	2月	5年次生・大学院生	薬業関連企業対策学外(天満橋)ガイダンス・セミナー③④(土曜日開催)
38	3月	5年次生・大学院生	薬業関連企業対策学外(天満橋)ガイダンス・セミナー⑤⑥(土曜日開催)
39	3月	5年次生他(全学年)	職種紹介学内企業セミナー(病院、薬局等)

薬剤師国家試験対策委員長 掛見 正郎

第95回薬剤師国家試験（平成22年3月6日・7日施行）の合格者発表が3月30日に厚生労働省で行われた。本学の今年度の成績は新卒合格率75.00%（全国5位、私学4位）であった（表）。また、既卒者を含めた全体合格率も71.62%（全国8位）であった。この1年間の国家試験対策委員をはじめ関係教職員のご協力と、そして何よりも学生諸君の努力に対し、心から感謝と敬意を表するものである。今後も、より良い成果に向かって国家試験対策委員会は最善を尽くしたいと考えているので、関係教職員のご協力をお願い申し上げる次第である。

区 分			出願者(人)	受験者(人)	合格者(人)	合格率
本 学	新 卒	男	20	20	16	80.00%
		女	4	4	2	50.00%
		計	24	24	18	75.00%
	その他卒	計	57	50	35	70.00%
	総 数		81	74	53	71.62%
私 立		新 卒	1,240	494	39.84%	
		その他卒	4,762	2,997	62.94%	
		総 数	6,002	3,491	58.16%	
全 国		新 卒	1,318	523	39.68%	
		その他卒	5,402	3,264	60.42%	
		総 数	6,720	3,787	56.35%	

区 分			受験者(人)	合格者(人)	合格率	新卒私学平均 (新卒全国平均)
第95回 (H.22)	Y	男	8	6	75.00%	39.84% (39.68%) 4 位
		女	2	1	50.00%	
	計		10	7	70.00%	
	S	男	12	10	83.33%	
		女	2	1	50.00%	
	計		14	11	78.57%	
	総 数		24	18	75.00%	

Y：薬学科 S：生命薬学科

第56回公開教育講座

第56回大阪薬科大学公開教育講座
『くすりの作用と副作用』

日 時 平成22年11月27日（土）14時～17時35分

会 場 梅田スカイビルタワーウエスト36階 会議室L・R

演題・講師 14：10～15：40「心血管病と性差」
大阪医科大学 内科学Ⅲ 助教 腎臓内科医長 森 龍彦 先生

15：55～17：25「レニン・アンジオテンシン系の新展開 降圧と臓器保護」
大阪大学医学部附属病院 老年・高血圧内科 病院教授 大石 充 先生

受 講 受 付 当日受付のみとなります。事前の申し込みは必要ありません。

受 講 料 3,000円（本学卒業生2,000円）

主催：大阪薬科大学
Osaka University of Pharmaceutical Sciences
＜大阪薬科大学公開教育講座委員会＞

共 催 （財）日本薬剤師研修センター／（社）日本薬学会近畿支部

後 援 （社）大阪府薬剤師会／大阪薬科大学同窓会

市民講座委員長 天野 富美夫

大阪薬科大学市民講座は、市民の皆様には医薬品や健康についての理解をより一層深めていただきたいとの趣旨で、本学の特色を活かした講演活動を活発に行ってまいりました。お蔭様をもちまして、本学周辺を中心に、地域住民の方々の年間行事として定着し、これまでに29回を開催することができました。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜と、関係者一同、心より感謝いたしております。

本年度は、3大学（関西大学、大阪医科大学、本学）連携事業の一環として、また、特定非営利活動法人セルフメディケーション推進協議会との共催事業により、下記の日程にて開催いたしております。地元の市民の方々はもちろん、本学教職員や学生、ならびにそのご家族の皆様方の本市民講座へのご参加を期待しております。

平成22年度市民講座

第29回（3大学連携事業）

5月22日（土）13：00～16：30（開催済）

『介護・看護を支える科学』

1. 「人にやさしい技術」

関西大学 システム理工学部 機械工学科 准教授 倉田 純一 先生

2. 「介護・看護の現場は、今どのようなになっているか」

・すこやかな皮膚を保つコツ－床ずれ予防－

大阪医科大学附属病院 看護部主任 皮膚・排泄ケア 認定看護師 池 智代 先生

・健康維持のために－口腔ケアを見直そう－

大阪医科大学附属病院 看護部主任 摂食・嚥下障害看護 認定看護師 檀上 明美 先生

3. 「お薬を安心してのんでいただくための「くすりの話」」

大阪薬科大学 臨床実践薬学教育研究室 教授（特任） 鈴木 芳郎 先生

4. 3大学によるパネルディスカッション



第30回（セルフメディケーション推進協議会との共催事業）

10月24日（日）13：00～16：30

『心身ともに、より健やかに生きるために』

1. 「一般用（OTC）医薬品との上手なつきあい方～いきいきセルフメディケーションのために～」

エスエス製薬株式会社 代表取締役社長

日本OTC医薬品協会 広報委員会委員長 塩野 紀子 先生

2. 「心にふれる人とのかわり」

ホスピスチャプレン カウンセラー 沼野 尚美 先生

3. 「健康フェア」

学生相談室相談員 原 祐子

学生相談室をご存知ですか？ 学生相談室は、本学学生である皆さん方が抱えている悩みについて、自由に相談できる場所です。例えば、「サークルの人間関係がうまくいかない」「昼ご飯を一緒に食べる友達がいない」「留年して、友達と離れてしまった」「試験勉強がはかどらない」「将来の進路について悩んでいる」「生活リズムが乱れて授業を休みがち」など、相談内容はどんなことでも構いません。毎年、延べ100～150名ほどの学生が、学生相談室を利用しています。さまざまな悩みによって、学生生活を楽しくなくなっていたり、毎日の生活がしんどくなっていたりするようであれば、一度相談室を利用してみてください。

では、学生相談室の相談員には何ができるのでしょうか？ 相談員は、カウンセラーと言われる場合もありますが、「臨床心理士」という資格を有する心の援助の専門家です。というと、人の心が何でもわかってしまうと思われるかもしれませんが、残念ながらそうではありません。日本の臨床心理学の第一人者でいらっしゃる故河合隼雄先生は、『こころの処方箋』というご著書の中でこのように述べておられます。「臨床心理学などということを専門にしていると、他人の心がすぐにわかるのではないかとよく言われる。（中略）確かに私は臨床心理学の専門家であるし、人の心ということを手を相手にして生きてきた人間である。しかし、実のところは、一般の予想とは反対に、私は人の心などわかるはずがないと思っているのである。（中略）一般の人は人の心がすぐわかると思っておられるが、人の心がいかにわからないかということ、確信をもって知っていると、専門家の特徴である。」

相談員は、街角の占い師さんのように、先々の未来を言い当てることはできません。また、テレビの人生相談番組のように、「・・・しなさい」「・・・してはだめ」と、具体的に指示をすることもありません。相談員は、皆さんが、円滑に学生生活を送るために、そして今までよりもさらによく自分を知り、自分らしさを実現していくために、皆さんと時間を共にします。

皆さんの悩みを解決するための答えは、皆さん自身のなかにあります。いかにそれに気づくかが、問題なのです。しかし、自分一人でそれに気づくことは案外難しいものです。その答えを、皆さんと一緒に探していくのが、相談員の役割です。険しい道のりも、誰かと共に進んだ方が、幾分か心強く進むことができるものです。また、答えを探していく過程で、自分に足りなかったものに気づけば、必要なものを新たに身につけるための方法について考えることもできます。さらに、皆さんの問題を解決していくために、身近にいる周りの方々に理解してもらったり、援助してもらったりすることが必要な場合には、いかにしてそのサポートを得られるかについても考えます。

学生相談室は、学生である皆さんのために大学が準備してくれている施設ですから、誰でも自由に利用することができます（ただし予約制です）。「こんなことで相談に行っただけなのかな・・・」といった心配はいりません。思い立ったら、ぜひ一度相談室にいらしてください。まずは、

見学だけでもOKです。学生に関して教職員の皆さんからのご相談も受け付けております。多くの方々との出会いを、相談室でお待ちしております。

【引用文献】河合隼雄：こころの処方箋，新潮社，1992。



学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に2回、カウンセラー（専門の臨床心理士）が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。



原 祐子相談員



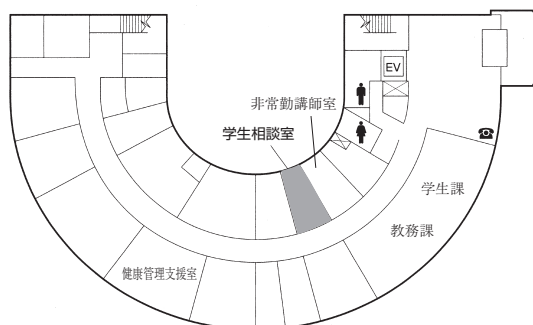
小田佳子相談員

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00

TEL：(072) 690-1077（直通）

E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp

《場所》A棟1階



事務局長 田部 信重

平成21年度決算

学校法人大阪薬科大学の平成21年度決算については、平成22年5月25日（火）に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録及び監事監査報告書を掲載し、その概要を説明します。

（資金収支計算書）

平成21年度の資金収支は、主な収入源である学生生徒等納付金収入が、予算を7,813万円上回りました。また、主な支出源である人件費支出が、予算を1億5,735万円下回りました。その結果、次年度繰越支払資金は27億3,106万円となりました。

平成22年度予算

学校法人大阪薬科大学の平成22年度予算については、事業計画及び予算編成方針に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行いました。平成22年3月23日（火）に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、資金収支予算書・消費収支予算書を掲載し、資金収支科目を中心に、その概要を説明します。

（総括）

平成22年度の収入予算総額（収入の部合計－前年度繰越支払資金）は47億4,485万円、支出予算総額（支出の部合計－次年度繰越支払資金）は46億3,799万円であり、差引き1億686万円の収入超過となります。

<収入の部>

（学生生徒等納付金収入）

学部新入生は入学定員（300名）として予算編成し、授業料19億7,320万円、入学金1億4,000万円、施設設備費9億5,400万円他を計上しました。

（補助金収入）

私立大学等経常費補助金2億8,800万円、施設整備費補助金2,500万円他を計上しました。

（事業収入）

附属薬局の収入予算4億9,400万円他を計上しました。

<支出の部>

（人件費支出）

教員人件費は10億8,210万円、事務職員人件費は附属薬局分を含め5億973万円、退職金は8,400万円他を計上しました。

（教育研究経費支出）

新5年次生病院・薬局実務実習費、B棟外壁修理工事、C棟FCU配管漏水工事、芝生保守他、計8億8,200万円を計上しました。

（管理経費支出）

受験生向けホームページ運用費、事務処理コンピュータシステムアカウントSE費用、附属薬局費支出他、計5億9,827万円他を計上しました。

（施設関係支出）

構築物支出として、運動場芝生化二期工事分2,910万円を計上しました。

■平成21年度決算

平成21年度 資金収支計算書

平成21年4月1日から
平成22年3月31日まで

（単位：円）

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,655,400,000	2,733,532,000	△ 78,132,000
手数料収入	71,700,000	90,496,364	△ 18,796,364
寄付金収入	20,000,000	28,560,000	△ 8,560,000
補助金収入	301,100,000	354,129,160	△ 53,029,160
国庫補助金収入	301,000,000	353,998,000	△ 52,998,000
高槻市結核対策費補助金収入	100,000	131,160	△ 31,160
資産運用収入	25,000,000	41,813,107	△ 16,813,107
資産売却収入	700,000,000	700,000,000	0
事業収入	461,500,000	507,994,202	△ 46,494,202
雑収入	25,000,000	52,521,972	△ 27,521,972
前受金収入	419,000,000	466,300,000	△ 47,300,000
その他の収入	217,257,000	187,689,735	29,567,265
資金収入調整勘定	△ 582,400,000	△ 715,749,521	133,349,521
前年度繰越支払資金	3,546,677,000	3,903,267,818	△ 356,590,818
収入の部合計	7,860,234,000	8,350,554,837	△ 490,320,837

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,575,834,000	1,418,484,740	157,349,260
教育研究経費支出	704,446,000	619,205,151	85,240,849
管理経費支出	563,651,000	572,178,750	△ 8,527,750
借入金等利息支出	76,100,000	76,064,113	35,887
借入金等返済支出	544,500,000	544,430,000	70,000
施設関係支出	186,410,000	179,539,643	6,870,357
設備関係支出	246,986,000	248,466,970	△ 1,480,970
資産運用支出	700,000,000	1,768,051,772	△ 1,068,051,772
その他の支出	224,355,000	398,310,674	△ 173,955,674
[予備費]	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△ 183,269,000	△ 205,240,307	21,971,307
次年度繰越支払資金	3,201,221,000	2,731,063,331	470,157,669
支出の部合計	7,860,234,000	8,350,554,837	△ 490,320,837

平成21年度 消費収支計算書

平成21年4月1日から
平成22年3月31日まで

(単位：円)

消 費 収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,655,400,000	2,733,532,000	△ 78,132,000
手数料	71,700,000	90,496,364	△ 18,796,364
寄付金	20,000,000	41,488,202	△ 21,488,202
補助金	301,100,000	354,129,160	△ 53,029,160
国庫補助金	301,000,000	353,998,000	△ 52,998,000
高槻市結核対策費補助金	100,000	131,160	△ 31,160
資産運用収入	25,000,000	41,813,107	△ 16,813,107
資産売却差額	3,900,000	3,981,000	△ 81,000
事業収入	461,500,000	507,994,202	△ 46,494,202
雑収入	25,000,000	52,521,972	△ 27,521,972
帰属収入合計	3,563,600,000	3,825,956,007	△ 262,356,007
基本金組入額合計	△ 751,942,000	△ 709,731,836	△ 42,210,164
消費収入の部合計	2,811,658,000	3,116,224,171	△ 304,566,171

消 費 支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,557,834,000	1,398,844,710	158,989,290
教育研究経費	1,183,631,000	1,090,744,523	92,886,477
管理経費	593,709,000	625,662,569	△ 31,953,569
借入金等利息	76,100,000	76,064,113	35,887
資産処分差額	4,800,000	57,843,987	△ 53,043,987
[予備費]	20,000,000		20,000,000
消費支出の部合計	3,436,074,000	3,249,159,902	186,914,098

当年度消費支出超過額	624,416,000	132,935,731	
前年度繰越消費収入超過額	20,384,000	257,111,148	
翌年度繰越消費収入超過額	0	124,175,417	
翌年度繰越消費支出超過額	604,032,000	0	

貸 借 対 照 表

平成22年3月31日

(単位：円)

資 産 の 部			
科 目	平成21年度末	平成20年度末	増 減
固定資産	20,331,406,064	19,385,662,648	945,743,416
有形固定資産	17,519,372,751	17,674,168,372	△ 154,795,621
土地	8,721,420,350	8,721,420,350	0
建物	6,296,172,457	6,472,376,861	△ 176,204,404
その他の有形固定資産	2,501,779,944	2,480,371,161	21,408,783
その他の固定資産	2,812,033,313	1,711,494,276	1,100,539,037
流動資産	3,717,807,369	4,908,893,633	△ 1,191,086,264
現金預金	2,731,063,331	3,903,267,818	△ 1,172,204,487
その他の流動資産	986,744,038	1,005,625,815	△ 18,881,777
資産の部合計	24,049,213,433	24,294,556,281	△ 245,342,848

基 本 金 の 部			
科 目	平成21年度末	平成20年度末	増 減
第1号基本金	20,298,116,974	19,588,385,138	709,731,836
第3号基本金	85,000,000	85,000,000	0
第4号基本金	201,000,000	201,000,000	0
基本金の部合計	20,584,116,974	19,874,385,138	709,731,836

消 費 収 支 差 額 の 部			
科 目	平成21年度末	平成20年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	124,175,417	257,111,148	△ 132,935,731
消費収支差額の部合計	124,175,417	257,111,148	△ 132,935,731

科 目	平成21年度末	平成20年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	24,049,213,433	24,294,556,281	△ 245,342,848

負 債 の 部			
科 目	平成21年度末	平成20年度末	増 減
固定負債	2,149,722,649	2,713,792,679	△ 564,070,030
長期借入金	1,377,720,000	1,922,150,000	△ 544,430,000
その他の固定負債	772,002,649	791,642,679	△ 19,640,030
流動負債	1,191,198,393	1,449,267,316	△ 258,068,923
短期借入金	544,430,000	544,430,000	0
その他の流動負債	646,768,393	904,837,316	△ 258,068,923
負債の部合計	3,340,921,042	4,163,059,995	△ 822,138,953

財 産 目 録

平成22年3月31日

(単位：円)

I 資産総額	24,049,213,433
内 基本財産	17,598,327,038
運用財産	6,450,886,395
II 負債総額	3,340,921,042
III 正味財産	20,708,292,391

区 分	金 額	
資産額		
1 基本財産	17,598,327,038	
土地	59,259.53㎡	8,721,420,350
建物（付属設備を含む）	35,734.80㎡	6,296,172,457
図書	89,198冊 1,798本	1,308,705,004
構築物・機器備品	1,949点	1,193,037,987
その他	78,991,240	
2 運用財産	6,450,886,395	
現金預金	2,731,063,331	
その他	3,719,823,064	
資 産 総 額	24,049,213,433	

区 分	金 額	
負債額		
1 固定負債	2,694,152,649	
長期借入金	1,922,150,000	
その他	772,002,649	
2 流動負債	646,768,393	
負 債 総 額	3,340,921,042	
正 味 財 産（資産総額－負債総額）	20,708,292,391	

注記 固定負債長期借入金について
貸借対照表では、平成22年度期中において返済予定のものを、短期借入金としている。

監査報告書

平成22年 5月20日

学校法人 大阪薬科大学

理事長 矢内原千鶴子 殿

学校法人 大阪薬科大学

監事 露口 佳彦

監事 吉田 訓康

私たちは、学校法人大阪薬科大学の監事として、私立学校法第37条第3項並びに寄附行為第33条に基づいて同学校法人の平成21年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上

■平成22年度予算

平成22年度 資金収支予算書

平成22年4月1日から
平成23年3月31日まで

（単位：千円）

収 入 の 部			
科 目	平成22年度予算	平成21年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	3,068,700	2,655,400	413,300
手数料収入	71,100	71,700	△ 600
寄付金収入	20,000	20,000	0
補助金収入	318,900	301,100	17,800
国庫補助金収入	314,800	301,000	13,800
高槻市結核対策費補助金収入	100	100	0
学術研究振興資金収入	4,000	0	4,000
資産運用収入	40,700	25,000	15,700
資産売却収入	600,000	700,000	△ 100,000
事業収入	501,000	461,500	39,500
雑収入	79,000	25,000	54,000
前受金収入	416,000	419,000	△ 3,000
その他の収入	210,369	217,257	△ 6,888
資金収入調整勘定	△ 580,914	△ 582,400	1,486
前年度繰越支払資金	2,615,601	3,546,677	△ 931,076
収入の部合計	7,360,456	7,860,234	△ 499,778

支 出 の 部			
科 目	平成22年度予算	平成21年度予算	増 減
人件費支出	1,697,835	1,575,834	122,001
教育研究経費支出	882,001	704,446	177,555
管理経費支出	598,276	563,651	34,625
借入金等利息支出	56,800	76,100	△ 19,300
借入金等返済支出	544,500	544,500	0
施設関係支出	30,550	186,410	△ 155,860
設備関係支出	174,957	246,986	△ 72,029
資産運用支出	600,000	700,000	△ 100,000
その他の支出	245,876	224,355	21,521
[予備費]	20,000	20,000	0
資金支出調整勘定	△ 212,807	△ 183,269	△ 29,538
次年度繰越支払資金	2,722,468	3,201,221	△ 478,753
支出の部合計	7,360,456	7,860,234	△ 499,778

平成22年度 消費収支予算書

平成22年4月1日から
平成23年3月31日まで

（単位：千円）

消 費 収 入 の 部			
科 目	平成22年度予算	平成21年度予算	増 減
学生生徒等納付金	3,068,700	2,655,400	413,300
手数料	71,100	71,700	△ 600
寄付金	20,000	20,000	0
補助金	318,900	301,100	17,800
国庫補助金	314,800	301,000	13,800
高槻市結核対策費補助金	100	100	0
学術研究振興資金	4,000	0	4,000
資産運用収入	40,700	25,000	15,700
資産売却差額	0	3,900	△ 3,900
事業収入	501,000	461,500	39,500
雑収入	79,000	25,000	54,000
帰属収入合計	4,099,400	3,563,600	535,800
基本金組入額合計	△ 732,000	△ 751,942	19,942
消費収入の部合計	3,367,400	2,811,658	555,742

消 費 支 出 の 部			
科 目	平成22年度予算	平成21年度予算	増 減
人件費	1,661,105	1,557,834	103,271
教育研究経費	1,368,901	1,183,631	185,270
管理経費	662,576	593,709	68,867
借入金等利息	56,800	76,100	△ 19,300
資産処分差額	2,300	4,800	△ 2,500
[予備費]	20,000	20,000	0
消費支出の部合計	3,771,682	3,436,074	335,608

当年度消費支出超過額	404,282	624,416	
前年度繰越消費収入超過額	-	20,384	
前年度繰越消費支出超過額	343,196	-	
翌年度繰越消費支出超過額	747,478	604,032	

総務課

■人事

＜大学関係＞

採用(平成22年2月1日付)
教授(特任) 長船 芳和
教授(特任) 花山加代子
(平成22年4月1日付)
教授 松村 人志
教授(特任) 佐藤健太郎
教授(特任) 鈴木 芳郎
教授(特任) 新田 剛
教授(特任) 梶本 哲也
事務職員 長瀬 護(嘱託職員)

退職(平成22年3月31日付)
教授 田中 一彦(定年)
教授 田中 孝生(任期満了)
教授 濱中久美子
助教 箕浦 理佐

昇任(平成22年4月1日付)
助教 藤嶽美穂代
助教 羽田 理恵
主任 小牧 優

併任(平成22年4月1日付)
キャリアサポート部長 藤田 芳一(教授)
図書館長 三野 芳紀(教授)
研究委員長 辻坊 裕(教授)
共同研究センター長 天野富美夫(教授)
薬用植物園長 馬場きみ江(教授)
(平成22年4月8日付)
大学院博士前期課程指導教員 山口 敬子(助教)

委嘱(平成22年4月1日付)
教授 田中 一彦(嘱託)
校医 柚木 孝士(非常勤)
学生相談室顧問 米田 博(非常勤)
学生相談室相談員 岡 鈴佳(非常勤)
学生相談室相談員 原 祐子(非常勤)
(平成22年7月16日付)
校医 柚木 孝仁(非常勤)
(平成22年10月1日付)
学生相談室相談員 小田 佳子(非常勤)

解嘱(平成22年5月29日付)
校医 柚木 孝士(非常勤)
(平成22年8月31日付)
学生相談室相談員 岡 鈴佳(非常勤)

客員研究員(平成22年4月1日付)
濱 六郎
相馬 義郎
Tzyh-Chang Hwang
嶋林 三郎
(平成22年5月1日付)
水野 洋
(平成22年7月1日付)
林 哲也
森 龍彦
(平成22年10月1日付)
阪本 英二
海崎 純男

招へい教授(平成22年4月1日付)
濱 六郎
Tzyh-Chang Hwang
嶋林 三郎

非常勤講師

(前期：平成22年4月1日付)
伊藤 信也(人間と文化4b(女性学)、異文化言語演習1)
神野ゆみこ(ドイツ語1)
山東 勤弥(臨床栄養学)
武内 徹(免疫学)
谷口 智美(フランス語1、2)
鶴 真一(フランス語4、人間と文化4a(人間と宗教))
東井 孝之(異文化言語演習1)
戸田 有一(人間と文化1b(人間と心理)、異文化言語演習1)
朝野 和典(臨床感染症学)
中村 隆志(人間と文化1a(人間と法))
中村 恵(ドイツ語1、2、4、異文化言語演習1)
中元 安雄(調剤学実習)
西谷茉莉子(英語1)
長谷川健一(ドイツ語2、4)
橋口 雅美(健康科学演習)
樋口 久(英語1)
藤岡 重和(臨床生理学)
藤本 幸治(異文化言語演習1)
藤原 英明(医用工学概論)
榎矢 桂一(ドイツ語1、2、異文化言語演習1)
松村 泰志(医療情報学)
和田 晋一(臨床生理学)
Ian Murray Richards(英語3)
Joseph Michael Jacobs(英語3)
久保 護(補習(化学))
阪本 秀敏(補習(生物))
鎌野 知裕(健康科学演習)(非常勤助手)
宮田 真希(健康科学演習)(非常勤助手)
門川 裕美(健康科学演習)(非常勤助手)
(後期：平成22年9月13日付)
飯田 泰弘(英語2)
伊藤 信也(異文化言語演習2)
井上 径子(英語2)
小川 賀偉(医療薬理学1)
下川 敏雄(情報科学)
辻 光宏(情報科学)
鶴 真一(フランス語3、異文化言語演習2)
東井 孝之(薬学英語2、異文化言語演習2)
利根 有紀(英語4)
中野 隆史(病原微生物学)
中村 恵(ドイツ語3、異文化言語演習2、人間と文化4e(ドイツ語・フランス語)、人間と文化4c(人間と文学))
長谷川健一(ドイツ語3)
林 恭平(生物統計学演習)
林 武文(情報科学)
樋口 久(英語2)
藤本 幸治(異文化言語演習2)
榎矢 桂一(ドイツ語3、異文化言語演習2、人間と文化2)
Ian Murray Richards(英語4)
Joseph Michael Jacobs(英語4)

＜法人関係＞

理事・評議員辞任(平成22年3月31日付)
佐藤 健太郎
評議員辞任(平成22年3月31日付)
鈴木 芳郎
理事就任(平成22年6月8日付)
常風 潤一

■監事就任(平成22年7月31日付)

露口 佳彦
出水 順

■理事・評議員退任(平成22年8月24日付)

有田 浩和

■評議員就任(平成22年9月28日付)

田嶋 政郎

(平成22年9月29日付)

岡田 健治

■学位記授与式

平成22年3月20日(土)午前10時30分よりD棟講堂において、平成21年度大阪薬科大学学位記授与式(学部37名、大学院博士前期(修士)課程78名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



■入学式

平成22年4月2日(金)午前10時30分よりD棟講堂において、平成22年度大阪薬科大学入学式(学部326名(編入学1名含む)、大学院修士課程15名、博士後期(博士)課程1名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



■海外出張

小林 祐次 客員教授(創薬基盤科学研究室)

＜出張期間：平成22年6月2日～6月12日＞

第12回生理活性ペプチドに関するナポリワークショップ講演(イタリア)

＜出張期間：平成22年9月3日～9月24日＞

第31回ヨーロッパペプチドシンポジウムに参加(デンマーク)

■慶 弔

＜訃報＞

柚木 孝士 校医(平成22年5月29日逝去)

有田 浩和 理事・評議員(平成22年8月24日逝去)

■防災訓練

平成22年7月5日(月)防災訓練が実施されました。正午にD棟2階一般製剤室より地震に伴う火災が発生したとの想定で開始され、講義中の学生を含め、消火・通報連絡・避難誘導・警備・救護の各訓練が行われました。避難完了後、学生に対し、土井勝防火・防災管理者より注意喚起を含めた挨拶が行われました。



■研究管理支援室

動物実験について

平成21年度の本学における動物実験の概要は、次のとおりです。

- (1) 実験従事者(教員、大学院生、研究室所属学部生等)：研究者183名 学部実習生(1、3年次生)
- (2) 教育・研究において使用した実験動物：総数10,547匹(ウサギ、モルモット、マウス、ラット等)

平成22年度 科学研究費補助金採択状況

区分	職 名	氏 名	研究種目	研 究 課 題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)
継続	客員教授	小林 祐次	基盤研究(B)	終末糖化産物の受容体(RAGE)を標的とする糖尿病合併症の予防・治療薬の探索	2,700	810
	教 授	天野富美夫	基盤研究(C)	サルモネラの乾燥耐性獲得機構に関する研究	900	270
	教 授	春沢 信哉	基盤研究(C)	リボザイムの機能解明と乳癌抑制作用を持つイミダゾールC-ヌクレオシドの合成	700	210
	講 師	藤森 功	基盤研究(C)	脂質メディエーターによる脂肪細胞分化抑制の分子基盤	1,100	330
	助 教	箕浦 克彦	基盤研究(C)	認知症治療薬の開発を目指したタウ蛋白質の構造機能解析と自己凝集機構の解明	1,100	330
	教 授	松村 靖夫	基盤研究(C)	虚血性臓器障害と交感神経：エンドセリンおよびアンジオテンシン系の役割と性差	600	180
	学 長	千熊 正彦	基盤研究(C)	シスプラチン耐性がん有効な複核白金錯体の多様な核酸認識	500	150
	教 授	石田 寿昌	基盤研究(C)	タウ蛋白質のタングラー形成阻害剤の開発：認知症治療・予防薬開発のための基盤研究	700	210
	講 師	藤井 忍	基盤研究(C)	スフィンゴミエリナーゼの触媒機構の分子論	700	210
	教 授	土井 光暢	基盤研究(C)	βアミノ酸導入によるエラスチンフラグメントの医療基剤への応用	500	150
	教授(特任)	梶本 哲也	基盤研究(C)	環境に優しい「無臭ベンゼンチオール」をグリコシル化反応に利用する糖鎖合成法の開発	700	210
新規	助 教	平田 雅彦	基盤研究(C)	癌の早期診断と抗癌剤の薬効予測可能な新規シグナル伝達分子イメージング薬剤の開発	800	240
	教 授	辻坊 裕	基盤研究(C)	細菌のキチン分解機構に関する研究	1,900	570
	准教授	大野 行弘	基盤研究(C)	脳アストロサイトのカリウム緩衝機能に着目したてんかん病態研究	1,500	450
	講 師	和田 俊一	基盤研究(C)	膜透過性Aib含有ペプチドの核酸医薬への応用	1,700	510
合 計		15件			16,100	4,830

平成23年度 納付金について

●薬学部 納付金

○薬学科（6年制）

区 分		前 期	後 期	年 額 計
入 学 金（初 年 度）		400,000円	－	400,000円
学 費	授 業 料	600,000円	600,000円	1,200,000円
	施 設・設 備 費	300,000円	300,000円	600,000円

※5年次以降に予定されている学外での病院・薬局実務実習に必要な費用は大学が負担します。
※学友会及び育友会から徴収を委託されている納付金として、学友会入会金1,000円（初年度のみ）、学友会費5,000円（年額）及び育友会費18,000円（年額）があります。
なお、学友会とは本学学生で構成される自治団体、育友会とは本学学生の父母若しくはこれに準ずる者で構成される団体です。

○薬科学科（4年制）

区 分		前 期	後 期	年 額 計
入 学 金（初 年 度）		400,000円	－	400,000円
学 費 (1～3年次)	授 業 料	600,000円	600,000円	1,200,000円
	施 設・設 備 費	300,000円	300,000円	600,000円
学 費 (4年次)	授 業 料	500,000円	500,000円	1,000,000円
	施 設・設 備 費	250,000円	250,000円	500,000円

※学友会及び育友会から徴収を委託されている納付金として、学友会入会金1,000円（初年度のみ）、学友会費5,000円（年額）及び育友会費18,000円（年額）があります。
なお、学友会とは本学学生で構成される自治団体、育友会とは本学学生の父母若しくはこれに準ずる者で構成される団体です。

●大学院薬学研究科薬科学専攻（修士課程） 納付金

区 分	前 期	後 期	年 額 計
入 学 金（初 年 度） ※ 本 学 卒 業 生 は 免 除 す る	300,000円	－	300,000円
授 業 料	300,000円	300,000円	600,000円

※育友会から徴収を委託されている納付金として、育友会費18,000円（年額）があります。

●大学院薬学研究科薬学専攻（博士課程） 納付金

区 分	前 期	後 期	年 額 計
入 学 金（初 年 度） ※ 本 学 卒 業 生 は 免 除 す る	300,000円	－	300,000円
授 業 料	300,000円	300,000円	600,000円

※育友会から徴収を委託されている納付金として、育友会費18,000円（年額）があります。

学費納付書の送付について

学費納付書は、毎年、前期分は4月初旬に、後期分は10月初旬にご自宅へ郵送しています。
納付期日は、次のとおりです。

前期分学費	4月16日から4月30日
後期分学費	10月16日から10月30日

なお、納付金を滞納し、督促を受けても所定期日までに納付しない者は除籍となりますので、ご注意ください（学部：大阪薬科大学学則第17条、大学院：大阪薬科大学大学院学則第28条参照）。納付が遅れる特別な事情がある方は、大学（学生課）に事前にご連絡ください。

入試課

平成22年度 進学説明会

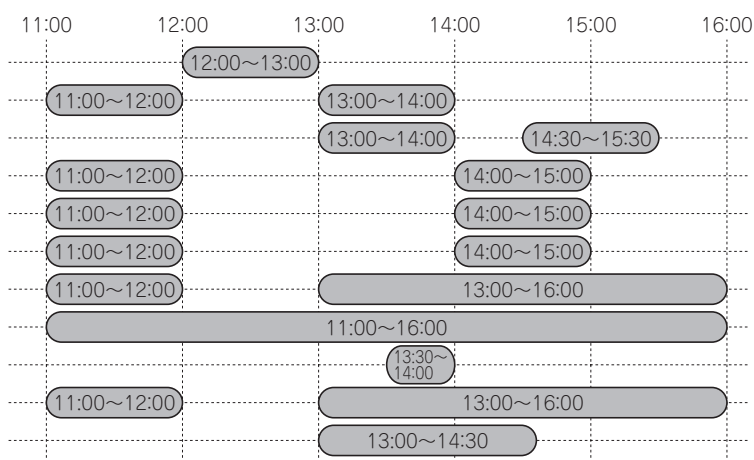
開催日：平成22年6月10日（木）
 場所：ホテルグランヴィア大阪
 参加校：47校
 参加者数：48名
 プログラム：第一部 入試説明
 第二部 キャリアサポート
 ～進路・就職指導支援～



オープンキャンパス2010 開催日／7月31日(土) 8月1日(日) 8月22日(日) 参加者数／925名

プログラム

挨拶・入試説明・就職状況
 模擬実験 薬剤師の仕事を体験してみよう
 模擬実験 葛根湯を作ろう
 模擬実験 バイオサイエンス入門
 模擬実験 パスフィズ(発泡性入浴剤)を作ろう
 製剤展示 錠剤やカプセル剤の作り方を見てみよう
 オープンラボ
 個別相談
 特別講師によるセミナー
 キャンパスツアー&フリートーク ※2コース選択制
 化学オリンピック連携事業「無機イオンの分析」
 (7月31日のみ)



模擬実験 バイオサイエンス入門



キャンパスツアー

平成22年度 入試結果

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)	センター試験利用入試 (C方式)	一般入試Ⅰ (F方式)	一般入試Ⅱ (G方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試 (H方式)
募集人員	80	20	70	80	若干名	5
志願者	477	671	436	809	3	3
受験者	475	670	423	622	2	3
合格者	189	236	194	206	0	1
入学者	108	19	74	83	0	1

平成22年度 大学院入試結果

入試種別	薬科学専攻修士課程	
	一般入試(一次)	一般入試(二次)
募集人員	20	若干名
志願者	17	2
受験者	17	1
合格者	17	1
入学者	15	0

入試種別	薬学専攻博士後期(博士)課程
	一般入試
募集人員	5
志願者	1
受験者	1
合格者	1
進学者	1

平成23年度 入試概要

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)	一般入試 I (F方式)	一般入試 II (G方式)
募集人員	80名	70名	80名
出願開始日	平成22年11月1日(月)	平成23年1月7日(金)	平成23年1月7日(金)
出願締切日	平成22年11月9日(火)消印有効	平成23年1月25日(火)消印有効 平成23年1月26日(水)のみ持参可	平成23年2月3日(木)消印有効 平成23年2月4日(金)のみ持参可
入学試験日	平成22年11月13日(土)	平成23年2月1日(火)	平成23年2月9日(水)
合格発表日	平成22年11月24日(水)	平成23年2月7日(月)	平成23年2月16日(水)
選考内容 (時間・配点)	[調査書] 150点 (理科、外国語の評定平均値 各25点、 数学、全体の評定平均値 各50点) 適性確認 [理 科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング	[理 科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分野を含む」) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分野を含む」) から1科目を選択する [外国語] 75分 75点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 75分 75点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル) [調査書] 150点 (理科、外国語、数学の評定平均値 各25点、全体の評定平均値 75点)	[理 科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分野を含む」) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分野を含む」) から1科目を選択する [外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル)

入試種別	センター試験利用入試 (C方式)	後期センター試験利用入試 (M方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試験 (H方式)
募集人員	20名	10名	若干名	5名
出願開始日	平成23年1月7日(金)	平成23年2月14日(月)	平成22年10月25日(月)	平成22年8月20日(金)
出願締切日	平成23年1月14日(金) 消印有効	平成23年3月1日(火) 消印有効 平成23年3月2日(水) のみ持参可	平成22年10月29日(金) 消印有効	平成22年8月25日(水) 消印有効
入学試験日			平成22年11月13日(土)	平成22年8月31日(火)
合格発表日	平成23年2月7日(月)	平成23年3月8日(火)	平成22年11月24日(水)	平成22年9月7日(火)
選考内容 (時間・配点)	センター試験利用科目 [理 科] 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰ のうち最高得点科目を採用し、それを2倍する [外国語] 200点 英語(リスニングを含む) ※記述式(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計得点を200点満点に換算する [数 学] 100点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点 本学の個別学力検査等は実施しない	センター試験利用科目 [理 科] 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰ から2科目を選択する [外国語] 200点 英語(リスニング除く)、 ドイツ語、フランス語、 中国語、韓国語から1科目を選択する [数 学] 100点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点 本学の個別学力検査等は実施しない [調査書] 200点 (全体の評定平均値を200点に換算する)	適性確認 [理 科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [面接] 学習意欲、日本語能力を確認する 薬学を修める上で必要な分野を試問する	[英 語] 45分 50点 [数 学] 45分 50点 [基礎有機化学] 60分 100点 [基礎生物学] 60分 100点 [基礎化学] 60分 100点 [面接]

教務課

学位授与

[博士(論文)]

論博第59号 博士(薬学) 箕浦 理佐

イミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究と生体機能性分子への応用
(平成22年3月20日付)

論博第60号 博士(薬学) 山口 敬子

三元錯体生成反応系を利用する生体関連物質の吸光度法の開発に関する研究
(平成22年3月20日付)

論博第61号 博士(薬学) 森本 茂文

がん化学療法におけるバイオマーカーの探索に関する研究
(平成22年3月20日付)

論博第62号 博士(薬学) 後藤 恵

NKT細胞と表皮角化細胞の増殖或いは機能におけるホスホジエステラーゼ7Aの役割
(平成22年6月30日付)

[修士]

修士(薬学) 男子37名 女子41名 合計78名

(平成22年3月20日付)

[学士]

学士(薬科学) 男子8名 女子5名 合計13名

薬科学科 13名(男子8名、女子5名)

学士(薬学) 男子20名 女子4名 合計24名

薬学科 10名(男子8名、女子2名)

生命薬学科 14名(男子12名、女子2名)

(平成22年3月20日付)

平成22年度 行事予定<大学院>

<薬科学専攻>

- 4.2(金) 入学式
- 4.7(水) 健康診断(男子)
- 4.8(木) 健康診断(女子)
- 4.13(火) 健康診断
- 4.28(水) 前期特論開始
- 5.9(日) 創立記念日
- 5.11(火) 前期特論選択科目履修届提出締切
午後3時(教務課)
- 7.27(火) 前期特論終了
- 8.18(水)～8.20(金)
平成23年度修士課程入学試験出願受付
- 8.25(水) 平成23年度修士課程入学試験
- 8.31(火) 平成23年度修士課程入学試験合格者発表
- 9.27(月) 後期特論開始
- 10.4(月) 後期特論選択科目履修届提出締切
午後3時(教務課)
- 10.15(金) 大学院特待奨学生選考(申請者発表会)
- 10.25(月)～10.29(金)
平成23年度(第2次)修士課程入学試験出願受付
- 11.1(月) 平成23年度(第2次)修士課程入学試験
- 11.9(火) 平成23年度(第2次)修士課程入学試験合格者発表
- 12.13(月) 後期特論終了

<薬学専攻>

- 4.7(水) 健康診断(男子)
- 4.8(木) 健康診断(女子)
- 4.12(月) 特論(前期前半)開始
- 4.13(火) 健康診断
- 5.9(日) 創立記念日
- 5.31(月) 臨床実務研修報告会(2年次臨床薬学コース)
- 6.4(金) 特論(前期前半)終了
- 6.7(月) 特論(前期後半)開始
- 7.23(金) 特論(前期後半)終了
- 9.21(火) 特論(後期前半)開始
- 10.15(金) 大学院特待奨学生選考(申請者発表会)
- 11.5(金) 特論(後期前半)終了
- 11.8(月) 特論(後期後半)開始
- 12.24(金) 特論(後期後半)終了
- 平成23年
- 1.17(月)～1.25(火)
平成23年度博士後期課程入学試験出願受付
- 2.4(金) 平成23年度博士後期課程入学試験
- 2.15(火) 修士学位論文提出期限午後1時(教務課)
- 2.18(金) 平成23年度博士後期課程入学試験合格者発表
- 3.1(火)～3.2(水)
修士学位論文発表会(予備日3月3日(木))
- 3.11(金) 平成22年度修士課程修了者発表
- 3.19(土) 学位記授与式

平成22年度 行事予定＜学部＞

4.2(金)	入学式	第2回薬学総合演習総合試験(旧課程4年次生)
4.3(土)	新入生学力テスト	12.3(金) 職種紹介学内企業セミナー(研究・臨床開発・MR職等)
4.5(月)	新入生ガイダンス	12.15(水) 実験動物慰霊祭
4.6(火)	校医講演・新入生健康診断・アドバイザー面談	12.21(火) 後期授業終了(1～4年次生)
4.7(水)	前期授業開始(1年次生～5年次生)	12.21(火)～12.22(水)
4.7(水)	健康診断(新入生以外の学生・職員の男子)	第3回薬学総合演習総合試験(旧課程4年次生)
4.8(木)	健康診断(新入生以外の学生・職員の女子)	12.22(水) 後期授業予備日(1～4年次生)
4.10(土)	共用試験ガイダンス(4年次生薬学科)	12.24(金) 後期授業予備日(1～3年次生)
4.13(火)	健康診断(新入生以外の学生)	12.25(土)～12.26(日)
4.14(水)	前期選択科目履修届提出締切(1～4年次生) 午後3時(教務課)	OSCE本試験(薬学科4年次生)
5.9(日)	創立記念日	12.27(月) 後期再試験 受験者発表(旧課程4年次生)
5.14(金)	新入生歓迎会(五月祭)[午後臨時休講]	平成23年
6.1(火)	前期授業終了(5年次生)	1.7(金) 後期授業予備日(1～3年次生)
6.5(土)	学友会球技大会	1.11(火) 病院・薬局実務実習第Ⅲ期開始(5年次生)
6.15(火)	前期実習終了(5年次生)	1.11(火)～1.13(木)
6.28(月)～6.30(水)	前期定期試験(5年次生)	後期再試験(旧課程4年次生)
7.1(木)	前期定期試験(5年次生)欠席届提出締切 午後1時(教務課)	1.11(火)～1.14(金)
7.14(水)	前期授業終了(1～4年次生)	後期定期試験(薬学科4年次生)
7.15(木)～7.16(金)	前期授業予備日	1.11(火)～1.20(木)
7.20(火)～7.29(木)	前期定期試験(1～4年次生)	後期定期試験(1～3年次生)
7.21(水)	前期再試験受験者発表(5年次生)	1.17(月) 後期定期試験(薬学科4年次生)欠席届提出締切(教務課) 午後1時
7.28(水)～7.29(木)	前期再試験(5年次生)	1.17(月)～1.19(水)
7.30(金)	前期定期試験(1～4年次生)欠席届提出締切 午後1時(教務課)	後期定期試験(薬科学科4年次生)
8.18(水)～8.23(月)	前期下位年次科目再試験(2～4年次生) 8月21日(土)を含む	1.19(水)～1.21(金)
8.24(火)～8.26(木)	CBT体験テスト(4年次生)	CBT本試験(薬学科4年次生)
8.25(水)	平成23年度大学院修士課程(薬科学専攻)一般入学試験	1.20(木) 後期定期試験(薬科学科4年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時
8.26(木)	前期再試験受験者発表(1～4年次生)	1.21(金) 後期定期試験(1～3年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時
8.31(火)	平成23年度編入学試験(H方式)	1.26(水)～1.29(土)
8.31(火)	平成23年度大学院修士課程(薬科学専攻)一般入学試験合格者発表	後期下位年次科目再試験(4年次生)
9.1(水)～9.10(金)	前期再試験(1～4年次生) 9月4日(土)を含む 前期再試験(旧課程) 9月4日(土)を含む	1.28(金) 後期再試験 受験者発表(4年次生) 特別再試験受験者発表(旧課程4年次生)
9.6(月)	病院・薬局実務実習第Ⅱ期開始(5年次生)	2.2(水)～2.7(月)
9.7(火)	平成23年度編入学試験(H方式)合格者発表	後期下位年次科目再試験(2～3年次生) 2月5日(土)を含む
9.13(月)	後期授業開始(1～4年次生)	2.2(水)～2.4(金)
9.21(火)	月曜日振替授業(1～4年次生)	後期再試験(4年次生)
9.24(金)	特別再試験 受験者発表(旧課程4年次生)	2.3(木)～2.4(金)
9.24(金)	後期選択科目(1～4年次生)履修届提出締切(教務課)午後3時	薬学総合演習正規試験1(旧課程4年次生)
10.20(水)～12.8(水)	特別再試験(旧課程4年次生)この期間の水曜日	2.4(金) 後期再試験 受験者発表(1～3年次生)
10.26(火)～10.27(水)	第1回薬学総合演習総合試験(旧課程4年次生)	2.8(火)・2.10(木)
10.28(木)	第45回大薬祭準備(午後臨時休講)	特別再試験(旧課程4年次生)
10.29(金)～10.31(日)	第45回大薬祭等(金曜日臨時休講)	2.14(月)～2.23(水)
11.1(月)	第45回大薬祭後片付け(1～4年次臨時休講)	後期再試験(1～3年次生) 2月19日(土)を含む
11.1(月)	平成23年度(第2次)大学院修士課程(薬科学専攻)入学試験	2.15(火) 特別再試験 受験者発表(4年次生)
11.9(火)	平成23年度(第2次)大学院修士課程(薬科学専攻)入学試験合格者発表	2.15(火)～2.16(水)
11.19(金)	病院・薬局実務実習第Ⅱ期終了(5年次生)	薬学総合演習正規試験2(旧課程4年次生)
11.24(水)～11.25(木)		2.17(木)～2.21(月)
		特別再試験(4年次生) 2月19日(土)を含む
		2.19(土)～2.20(日)
		薬剤師国家試験全国統一模擬試験(旧課程4年次生)
		2.25(金) CBT再試験(薬学科4年次生)
		2.26(土) OSCE再試験(薬学科4年次生)
		3.1(火) 卒業生発表(教務課)
		3.1(火)～3.3(木)
		特別再試験(旧課程3年次生)
		3.5(土)～3.6(日)
		第96回薬剤師国家試験(厚生労働省)
		3.15(火) 進級者発表・未修得科目発表(教務課)
		3.19(土) 学位記授与式
		3.25(金) 病院・薬局実務実習第Ⅲ期終了(5年次生)
		3.30(水) 第96回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)

平成22年度 大学院修士課程修了者 論文題目

氏 名	専 攻 分 野	修 士 論 文 題 目
浅 田 恵 美	生物科学	<i>Trichoderma viride</i> H1-7株の産生するチロシナーゼインヒビターの単離精製
朝 日 洋	生物科学	<i>Vibrio vulnificus</i> の病原性発現メカニズムの解析
荒 井 未 来	臨床薬学	甲状腺半切術後の術創治癒のメカニズム
有 宗 香 織	薬剤学	CYP3AおよびP-glycoprotein基質薬物の消化管吸収に与えるFuranocoumarins含有漢方製剤併用の影響
有 本 諭 司*	臨床薬学	透析患者における速効型インスリン分泌促進薬ミチグリニド投与時の早朝空腹時低血糖発現機序に関する検討
池 宮 安葵子	生物物理化学	Parkin Ubiquitin-like domain変異体の構造化学的研究
石 原 静	薬理学	Scn1a変異ラットの熱性けいれんモデルとしての有用性評価
今 木 淳 太	薬理学	セロトニン神経系による錐体外路系運動障害の発現調節
岩 本 明日香	臨床薬学	白金製剤 (cisplatin、carboplatin、oxaliplatin) のタンパク結合性に関する検討
岡 田 衣里子	衛生薬学	サルモネラの成分ワクチンの開発に関する研究
岡 本 有 加	分析化学	痛集積性の向上を目的とした新規 ^{99m} Tc標識シグマリガンドの合成と基礎的検討
門 林 孝 明*	臨床薬学	Irinotecanの体内歷程に関する検討－bilirubinとの相互作用について－
河 井 千 佳	生物物理化学	Na ⁺ /Ca ²⁺ exchanger1 (NCX1) のCa ²⁺ binding domain 1 (CBD1) の構造物理化学的研究及び一連のNCX1-CBD1金属錯体の結晶化
川 瀬 智 子*	薬剤学	川芎茶調散がetoposideの体内動態と副作用に及ぼす影響
北 田 研 人	薬理学	頸動脈バルーン傷害モデルにおけるエンドセリン-1の役割とその性差
北 田 浩 規	薬用資源学	海水魚由来真菌の代謝産物 spirofuranone-lactam 類縁体の絶対構造に関する研究
喜 谷 勇 輝	臨床薬学	過酸化水素測定用発色プローブの開発とマイクロプレート計測法への応用に関する研究
木 田 直 子	分析化学	トリアゾールを架橋配位子とする白金二核錯体によるDNAの高次構造変化
木 挽 友 博	生物物理化学	tauタンパク質の自己凝集抑制能を有する特異的認識抗体の作成とその構造機能解析に関する研究
木 村 公 洋	薬理学	DOCA食塩高血圧ラットの腎障害進展時におけるET-1およびNO産生系の相互作用
釘 山 直 子	薬剤学	抗リウマチ薬の関節内投与における微粒子型製剤の有用性に関する検討
楠 川 侑 吾	臨床薬学	Lipopolysaccharide及びcapsaicinが生体内へムタンパク質に及ぼす影響
黒 川 央*	臨床薬学	基礎的研究：尿微量アルブミン測定法の開発に関する研究 臨床的研究：診療報酬包括化に基づくジェネリック医薬品導入の検討
好 田 稔 規	臨床薬学	ヘパリン測定法の開発と尿中グルカリン酸測定の評価に関する研究
小 濱 清 子	衛生薬学	マクロファージ系細胞株J774.1/JA-4を用いたLPSによる新たな細胞障害機構の研究
小 林 加 奈	生物科学	ハブ血清由来ロイシンリッチ α_2 -グリコプロテインの基本的性質とcDNA塩基配列の決定
小 林 大 哲	生物科学	<i>Vibrio vulnificus</i> の鉄欠乏ストレスに関与する遺伝子欠損株の作製
駒 井 勇 太	有機薬科学	芳香環上にトリフルオロメチル基を有する新規セレン酸触媒の合成と酸化反応における触媒能
後 藤 力 哉	生物科学	ロイシンリッチ α_2 -グリコプロテイン (LRG) とシトクロムcの相互作用、およびLRGノックアウトマウス作製に関する研究
櫻 井 紀 宏	衛生薬学	マウスマクロファージ系細胞株J774.1/JA-4細胞の活性化に及ぼす酸素分圧の影響
佐々木 大 輔	臨床薬学	LPS誘発敗血症モデルの病態解析とcapsaicinの作用
佐 藤 のぞみ	生物物理化学	γ ケトプロリンを含むコラーゲンモデルペプチド
清 水 佐 紀	薬理学	5-HT _{1A} 受容体を介する錐体外路系運動障害の改善作用機序
清 水 亮 輔	薬剤学	LosartanとHydrochlorothiazide併用時の血圧低下効果に関する速度論的解析
麿 嶋 美 希	薬剤学	2型糖尿病ラットを用いたTolbutamideの血糖低下効果に与える生体リズムの影響
神 野 真 旭	薬用資源学	海水魚由来真菌の産生する新規 azaphilone 類縁体の研究
杉 本 佳 世	臨床薬学	院内肺炎の実態と治療効果に影響を与える要因に関する調査研究
須 崎 菜穂子	臨床薬学	キサンテン系色素－金属錯体を用いる医薬品の吸光光度定量法の開発に関する研究
善 田 直 樹	薬理学	虚血性急性腎障害に対する虚血ポストコンディショニング処置の腎保護効果について
祖父江 伸 匡*	薬理学	新規てんかんモデルgroggy (GRY) ラットの小発作発現に対する5-HT作動薬の作用評価
高 井 克 浩	分析化学	シスプラチン耐性がんにも有効な新規金属錯体の検索
高 儀 佳代子*	臨床薬学	妊娠・授乳中の服薬に対する女性と医療従事者の意識に関する調査研究
立 脇 夕憂子*	生物科学	クロビドグレルの安全性、有効性、およびスタチン、PPIとの併用に関する検討
田 中 裕 治	薬用資源学	アンデローバ (<i>Carapa guianensis</i>) 花油の新規リモノイドの探索研究
辻 井 寛 子	薬用資源学	Serratane型トリテルペノイドのHybridsに関する研究
鳥 本 龍 磨	薬剤学	リボソームが併用薬物の血中動態および肝代謝に及ぼす影響
中 尾 治 香	臨床薬学	Indomethacin誘発胃損傷の病態解析とcapsaicinの作用
中 川 明 子	臨床薬学	調剤業務に着目したリスクマネジメントに関する研究
鳴 戸 佳 子	生物物理化学	Tauタンパク微小管結合ドメイン (MBD) の自己重合におけるTyrosine残基と周囲のアミノ酸残基の重要性について
西 崎 倫 子	生物科学	ニワトリ卵白由来リゾホスホリパーゼDの精製と加水分解作用
根 来 美 希	衛生薬学	キサンチンデヒドロゲナーゼからオキシダーゼへの変換に対する脂質過酸化関連物質の影響
半 田 典 子	薬用資源学	カバノアナタケ菌核の産生する新規 Lanostane 型トリテルペノイド
朴 琴 順	生物物理化学	ヒト由来タンパク質合成開始因子eIF4Eに対する内因性制御因子4EBPサブタイプの相互作用研究－4EBPのeIF4E主要結合部位以外に存在する新規4E結合領域の重要性について－

氏 名	専 攻 分 野	修 士 論 文 題 目
東 山 陽 一	薬剂学	難水溶性薬物経口投与後のリンパ移行性に及ぼすmicroemulsionの影響
人 羅 康 匠	有機薬科学	膜透過性ペプチドを用いたオリゴスクレオチドの細胞膜透過性研究
福 本 大 起	薬理学	心虚血再灌流後の機能障害とノルエピネフリン過剰放出における性差
福 代 愛	生物物理化学	ヒト由来タンパク質合成開始因子4E (eIF4E)の4E結合タンパク質2(4EBP2)による制御機構解明に向けた構造機能解析
藤 井 健 介	有機薬科学	RNAプローブ創製のための新規C4置換C ₁ およびC ₅ イミダゾールスクレオチドの合成研究
藤 井 友加里	衛生薬学	環境化学物質である有機フッ素系化合物は血小板のアラキドン酸代謝を抑制する
藤 田 直 子	生物物理化学	立体構造に基づく終末糖化産物受容体(RAGE)とそのリガンドの相互作用解析
太 井 健 詞	薬理学	虚血性急性腎障害に対する摂餌制限の保護メカニズムについて
細 谷 真 子	臨床薬学	ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドによる心筋線維化抑制の研究
堀 尾 有 加	臨床薬学	キサンテン系色素の利用並びに新規発光団の創製とその分光物性に関する研究
前 北 章 衣*	臨床薬学	肥満に対するチアミンの効果：OLETFラットを用いた腎病変とインクレチンホルモン発現の検討
三 橋 慶 子	生物科学	<i>Acinetobacter baumannii</i> ATCC19606株のバイオフィルム形成能に影響をおよぼす遺伝子の探索
南 徳 子	衛生薬学	Liposomeによる大腸菌由来ATP依存性プロテアーゼ、Lonの活性発現調節に関する研究
向 畑 剛	有機薬科学	2'-O-アルキルグアノシン誘導体の新規合成法の開発とその応用
村 上 賢 次	薬理学	虚血・再灌流による腎間質線維化発症・進展への活性酸素の役割
森 本 有紀子	生物科学	<i>Bacillus cereus</i> 菌由来スフィンゴミエリナーゼの界面認識機構に関わるアミノ酸残基の作用
安 井 孝 太	臨床薬学	肥満に伴う代謝異常に対するチアミンの効果～摂食中枢異常OLETFラットを用いた検討～
山 口 瑛理子	有機薬科学	ミスマッチ塩基対を含む二重鎖DNAの安定性およびプライマー伸長反応に及ぼす金属イオンの影響
山 瀬 大 雄*	薬剂学	高血圧治療薬セリプロロールがもたらす糖尿病治療薬への影響
山 中 昌 子	有機薬科学	Schöllkopf の bislactim ether 法を用いる含窒素天然類縁化合物の合成
山 根 一 彦	臨床薬学	遺伝型が疾病重症度に及ぼす影響：脂肪酸輸送体欠損ラットにおける糖尿病性心病変の検討
山 本 真 也	薬理学	腎虚血再灌流障害に対する新規選択的 γ -glutamyl transpeptidase阻害薬の改善効果について
山 本 裕 美	臨床薬学	非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)動物モデルにおけるキマーゼの動態とキマーゼ阻害薬の効果
芳 村 利 信	生物科学	組換えヒト17 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 1 (17 β -HSD1)の作製とこれを利用した新規乳癌治療薬の活性評価
渡 邊 龍	有機薬科学	4-アリルオキシピラゾール類のClaisen転位と植物アルカロイドwithasomnine類の分岐的全合成への展開

*印は、臨床薬学コース

学生課

○平成22年度 学生会執行委員会

執行委員長	大西 亜以子	バドミントン部
副執行委員長	本田 麗美	剣道部
総務局長	田川 晃子	アルペンスポーツクラブ
会計部長	和木 聡美	フィールドウォーカーズ部
厚生局長	林 香菜子	ハンドボール部
広報渉外局長	牧野 洸太郎	ソフトテニス部
体育局長	大岩 身衣	旅行写真部
文化局長	米倉 美希子	茶道部

○平成22年度 大薬祭実行委員会

大薬祭実行委員長	池ヶ谷 貴之	ソフトテニス部
大薬祭副実行委員長	落合 緑	柔道部
総務部長	田川 晃子	茶道部
イベント部長	木戸 翔太	アルペンスポーツクラブ
リサイクル部長	長尾 友里恵	ラグビー部
装飾部長	長谷川 由佳	美術部
渉外部長	佐藤 知美	フィールドウォーカーズ部
渉内部長	村田 将隆	弓道部

○大薬祭「宝島～陽気な海賊たち～」が開催されます

本年度の大薬祭は、「宝島～陽気な海賊たち～」をテーマに、平成22年10月29日(金)～10月31日(日)の日程で開催されます。

当日は、文化系クラブの発表会を中心に、大薬祭の定番となっている「薔薇祭」や、リサイクルなど様々なイベントが行われる予定です。学生達の楽しい企画にご期待ください。



平成21年度 健康管理支援室 利用状況（H21.4.1～H22.3.31）

月	利用者別			利 用 内 容 別						計
	学 生	職 員	計	外科系	内科系	健康指導・相談	休 養	転 送	証 明	
4	93	5	98	30	22	29	14	3	0	98
5	129	13	142	28	27	54	12	1	20	142
6	377	14	391	33	24	304	14	1	15	391
7	203	10	213	29	27	121	22	3	11	213
8	18	5	23	6	5	1	2	1	8	23
9	65	25	90	28	17	17	16	2	10	90
10	94	30	124	33	34	36	18	0	3	124
11	82	15	97	16	33	30	14	0	4	97
12	88	21	109	16	32	23	10	0	28	109
1	61	22	83	7	20	12	10	1	33	83
2	35	16	51	11	15	7	5	1	12	51
3	41	17	58	11	11	4	3	0	29	58
計	1,286 〈1,573〉	193 〈163〉	1,479 〈1,736〉	248 〈236〉	267 〈279〉	638 〈656〉	140 〈145〉	13 〈5〉	173 〈415〉	1,479 〈1,736〉

〈 〉内は平成20年度

- 「外科系」はガーゼ交換、湿布交換を含む。
「健康指導・相談」は検尿、血圧測定、身長・体重測定等を含む。
「証明」は健康診断受診証明の作成・発行

健康管理について

平成22年度胸部X線受診状況（間接/直接撮影）

4/6～8、4/13、5/19

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計	職員
男性	128	126	115	70	83	9	40	0	0	0	571	66
	131	160	139	137	83	9	44	0	0	0	703	85
女性	201	175	136	67	142	6	19	1	1	0	748	25
	205	213	221	181	142	6	24	1	1	1	995	32
計	329	301	251	137	225	15	59	1	1	0	1,319	91
	336	373	360	318	225	15	68	1	1	1	1,698	117
受診率	97.9% 〈98.0〉	80.7% 〈36.7〉	69.7% 〈46.0〉	43.1% 〈43.3〉	100% 〈－〉	100% 〈100〉	86.8% 〈96.3〉	100% 〈100〉	100% 〈0〉	0% 〈－〉	77.7% 〈60.6〉	77.8% 〈77.3〉

〈 〉内は平成21年度

- * 感染症法の定めにより、「胸部X-P撮影」は学部・大学院の新入生と編入生のみ
必須受診項目とし、2・3・4・M2・D2・D3は選択受診項目とする。
* 実務実習を受ける5年次生は「胸部X-P撮影」を必須受診項目とする。
* 職員にはポストドクター/パートタイマー/アルバイトを含む。

平成22年度学生定期健康診断受診状況（全項目受診者）

4/6～8、4/13、5/19

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計
男性	129	140	116	83	77	9	40	0	0	0	594
	131	160	139	137	83	9	44	0	0	0	703
女性	201	194	170	96	140	6	19	1	1	0	828
	205	213	221	181	142	6	24	1	1	1	995
計	330	334	286	179	217	15	59	1	1	0	1,422
	336	373	360	318	225	15	68	1	1	1	1,698
受診率	98.2% 〈97.2〉	89.5% 〈72.7〉	79.4% 〈56.3〉	56.3% 〈53.2〉	96.4% 〈－〉	100% 〈97.3〉	86.8% 〈97.6〉	100% 〈100〉	100% 〈0〉	0% 〈－〉	83.7% 〈73.4〉

〈 〉内は平成21年度

- * 感染症法の定めにより、「胸部X-P撮影」は学部・大学院の新入生と編入生のみ
必須受診項目とし、2・3・4・M2・D2・D3は選択受診項目とする。
* 実務実習を受ける5年次生は「胸部X-P撮影」を必須受診項目とする。

平成22年度学生定期健康診断受診状況

（1項目以上受診した学生）

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計
男性	129	140	118	86	83	9	40	0	0	0	605
	131	160	139	137	83	9	44	0	0	0	703
女性	201	197	175	101	142	6	19	1	1	0	843
	205	213	221	181	142	6	24	1	1	1	995
計	330	337	293	187	225	15	59	1	1	0	1,448
	336	373	360	318	225	15	68	1	1	1	1,698
受診率	98.2%	90.3%	81.4%	58.8%	100%	100%	86.8%	100%	100%	0%	85.3%

～健康管理支援室から～

◎担架を、C棟1F（4ッ折）と
学生クラブハウス1F（2ッ折）に
設置しました。

◎平成22年7月16日から新しく校医として
柚木孝仁先生が就任されました。

キャリアサポート課

1. キャリアサポート課および資料室について

昨年度より、キャリアサポート課は学生面談室、応接室が配置され、新しく2台のビデオカメラシステムも導入しました。キャリアサポート資料室には検索専用パソコンを7台設置し、学生一人ひとりの細かい要求にも応えられる体制を整えました。また、大型スクリーンや大型液晶テレビ・DVDシステム等、AV機器も充実しており、40名までの講演や面談会場、グループディスカッションのトレーニングや面接会場として幅広い用途で利用しています。また、今年度は夏期のオープンキャンパスにおいてキャリアサポート課および資料室を開放し、多くの受験生、父母が見学されました。今後の就職状況について、受験生から担当者へ活発な質問があり、本学の就職状況、キャリアサポート体制について大いにピーアールすることができました。

キャリアサポート部委員会、キャリアサポート課としては、施設・設備面の充実とともにキャリアサポートガイダンス、職種紹介学内企業セミナー内容の充実、きめ細やかな職種別情報提供の必要性が高いことから、担当職員全員がキャリアカウンセラー資格を取得し、「質・レベルの高いサポート」を提供しています。さらに面談・面接を充実させて学生一人ひとりの興味、能力、価値観に応じた進路・就職支援をより一層強化していきたいと考えています。



オープンキャンパス 藤田部長のキャリアサポート説明風景



オープンキャンパス 受験生キャリアサポート課・資料室見学風景

2. 大学教育・学生支援推進事業【テーマB】

「学生支援推進プログラム」について

平成21年度文部科学省の上記プログラムに大阪薬科大学から申請した「学生の適性に応じた多様なキャリアサポート」の取り組みが採択（平成21～23年度：3年間）され、2年目になりました。昨年度は、本学オリジナルの「就活ガイド」「就活ノート」等を作成し、全学生に配布しました。今年度は、本学オリジナルの「就活ガイド（DVD版）」を作成し、学部5年次生・大学院1年次生に配布しました。このDVDは、就職活動のポイントをテーマ毎に構成しており、約40分の内容は、自己分析、業界研究の方法、エントリーシート・履歴書の記載方法、そしてマナー、面接・グループディスカッションの受け方等について、学生のみならずが気になるポイントをコンピュータグラフィックスとビデオ映像で分かりやすく説明しています。このDVDは「就活ガイド・ノート」との併用で実務実習時の就活トレーニング（準備）が可能になります。



3. 就職率ランキング

全国230大学就職率ランキング全国第1位

「サンデー毎日」に掲載

「サンデー毎日」2010年7月25日号（毎日新聞社）全国230大学就職率ランキングにおいて、卒業生数100人以上1,000人未満の大学で全国1位として紹介されました。本学では、低学年次からのキャリア教育に重点をおいており、キャリアサポート課を中心に、学生一人ひとりの興味・能力・価値観にあったきめ細やかなサポートを教員・職員が連携をとって行っています。

順位	大学(所在地)	卒業生数	決定者数	進学希望者数	08就職率 (女子)	09就職率 (女子)	10就職率 (女子)
1	○大阪薬科大(大阪)	115	98	15	95.5 (96.6)	98.0 (98.8)	99.0 (100.0)
2	○明治薬科大(東京)	152	95	35	96.2 (97.3)	97.8 (97.8)	99.0 (100.0)
3	○富山県立大(富山)	240	157	79	97.4 (100.0)	97.6 (100.0)	97.5 (96.7)
4	○東京福祉大(群馬)	340	325	6	97.3 (97.0)	97.5 (98.1)	97.3 (95.5)
5	△長岡技術科学大(新潟)	837	399	426	91.4 (—)	95.9 (94.1)	97.1 (47.6)
6	○青森県立保健大(青森)	106	150	3	— (—)	— (—)	96.9 (97.8)
7	○昭和薬大(東京)	291	271	10	— (—)	87.5 (90.1)	98.4 (97.0)
8	○藤田保健衛生大(愛知)	263	229	25	94.3 (94.9)	91.0 (93.5)	96.2 (95.5)
9	○星薬科大(東京)	130	95	33	97.0 (98.2)	95.9 (97.6)	95.0 (95.6)
10	○畿央大(奈良)	356	328	8	91.5 (91.5)	93.1 (92.2)	94.3 (92.7)

教員研究業績 (2009 年)

(2009.1.1 ~ 12.31)

1. 研究学術論文

著 者	標 題	掲 載 誌
宇佐美吉英, 大杉茉莉恵, 水木晃治, 市川隼人, 有本正生	Facile and efficient synthesis of naturally occurring carbasugars (+)-pericosines A and C	Org. Lett., 11, 2699~2701 (2009)
宇佐美吉英, 鈴木健太郎, 水木晃治, 市川隼人, 有本正生	Synthesis of (-)-pericosine B, the antipode of the cytotoxic marine natural product	Org. Biomol. Chem., 7, 315~ 318(2009)
宇佐美吉英, 有本正生, 小林貴代美, 本庄美貴子, 山中昌子, 宮尾美佐欣, 市川隼人, 他	Synthesis of aryltetralin type 2-azaligans using schöllkopf's bislactim-ether methodology	Heterocycles, 78, 2041~2052 (2009)
浦田秀仁, 玉木千尋, 松野美樹, 和田俊一, 赤木昌夫	FRET-based kinetic analysis of highly reactive heterochiral DNA toward EcoRI endonuclease	Biochem. Biophys. Res. Commun., 390, 192~195 (2009)
和田俊一, 人見哲平, 田中麗子	Phenolic compounds isolated from the bark of <i>Abies sachalinensis</i>	Helv. Chim. Acta, 92, 1610~ 1620 (2009)
和田俊一, 保井由美子, 田中麗子, 他	Anti-tumor-initiating effects of phenolic compounds isolated from the bark of <i>Picea jezoensis</i> var. <i>jezoensis</i>	Bioorg. Med. Chem., 17, 6414 ~6421 (2009)
箕浦理佐, 森田啓嗣, 山口真帆, 春沢信哉, 他	Synthesis of novel C4-linked C ₂ -imidazole ribonucleoside phosphoramidite and its application to probing the catalytic mechanism of a ribozyme	J. Org. Chem., 74, 2350~2356 (2009)
谷口雅彦, 芝野真喜雄, 馬場さみ江, 他	Quality of <i>Angelica acutiloba</i> roots cultivated and processed in Sichuan province of China	J. Trad. Med., 26, 169~178 (2009)
谷口雅彦, 芝野真喜雄, 馬場さみ江, 他	Fibrinolytic activity of ligustilide and pharmaceutical comparison of <i>Angelica acutiloba</i> roots before and after processing in hot water	J. Trad. Med., 26, 210~218 (2009)
坂口 実, 馬場さみ江, 他	Inhibitory effect of (-)-epigallocatechin and (-) -epigallocatechin gallate against heregulin β 1-induced migration/invasion of the MCF-7 breast carcinoma cell line	Biol. Pharm. Bull., 32, 899~ 904 (2009)
谷口雅彦, 他	Cancer preventive agents 9. Betulinic acid derivatives as potent cancer chemopreventive agents	Bioorg. Med. Chem. Lett., 19, 3378~3381 (2009)
馬場さみ江, 谷口雅彦, 芝野真喜雄, 他	アシタバの成分と系統育成	分析化学, 58, 999~1009 (2009)
芝野真喜雄, 端山絵文, 谷口雅彦, 馬場さみ江, 他	アシタバの苦味成分の探索	分析化学, 58, 1047~1051 (2009)
原田亜季, 伊藤さやか, 馬場さみ江, 好田稔規, 水津智樹, 藤嶺美穂代, 山口敬子, 藤田芳一	アシタバに含有されるカルコン誘導体を用いるチタン(IV)の 吸光光度定量	分析化学, 58, 681~686 (2009)
田中麗子, 辻井寛子, 山田剛司, 梶本哲也, 天野富美夫, 他	Novel 3 α -methoxyserrat-14-en-21 β -ol (PJ-1) and 3 β - methoxyserrat-14-en-21 β -ol (PJ-2)-curcumin, kojic acid, quercetin, and baicalein conjugates as HIV agents	Bioorg. Med. Chem., 17, 5238 ~5246(2009)
山口智晴, 尹 康子, 和田俊一, 山田剛司, 田中麗子, 他	Cancer chemopreventive activity of oleanane-type triterpenoids from the stem bark of <i>Betula ermanii</i>	Chem. Biodiversity., 6, 1093~ 1100(2009)
山田剛司, 室賀康秀, 重田寛文, 田中麗子, 他	Absolute stereostructures of chaetomugolins G and H produced by a marine-derived <i>Chaetomium</i> species	J. Antibiot., 62, 353~357 (2009)

著 者	標 題	掲 載 誌
山田剛司, 室賀康秀, 田中麗子	New azaphilones, <i>Seco</i> -chaetomugilins A and D, produced by a marine-derived <i>Chaetomium globosum</i>	Mar. Drugs, 7, 249~257 (2009)
室賀康秀, 山田剛司, 田中麗子, 他	Chaetomugilins I-O, new potent cytotoxic metabolites from a marine-fish-derived <i>Chaetomium</i> species. Stereochemistry and biological activities	Tetrahedron, 65, 7580~7586 (2009)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Crystal structure of (<i>dl</i>)-corynoxine	Anal. Sci., 25, 1~2 (2009)
尹 康子, 石田寿昌, 他	X-ray structure analysis of (<i>dl</i>)-DeN-corynoline, derived from hexahydrobenzo[<i>c</i>]phenanthridine type alkaloid corynoline	Anal. Sci., 25, 27~28 (2009)
尹 康子, 石田寿昌, 他	X-ray structure analysis of (<i>d</i>)-11-oxo-corynoline, a hexahydrobenzo[<i>c</i>]phenanthridine-type alkaloid	Anal. Sci., 25, 87~88 (2009)
箕浦克彦, 石田寿昌, 他	Structural requirement for chiral recognition of amino acid by (18-crown-6)-tetracarboxylic acid: Binding analysis in solution and solid state	Bull. Chem. Soc. Jpn., 82, 219~229 (2009)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Unique coordination mode of potassium ions to glycyrrhizin: X-ray crystal structure of glycyrrhizin dipotassium salt	Chem. Lett., 38, 1024~1025 (2009)
石田寿昌	Structural studies of specific intermolecular interactions and self-aggregation of biomolecules and their application to drug design	Chem. Pharm. Bull., 57, 1309~1334 (2009)
岡出隼人, 藤田有紀, 宮本沙織, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Turnip mosaic virus genome-linked protein VPg binds C-terminal region of cap-bound initiation factor 4E orthologue without exhibiting host cellular specificity	J. Biochem., 145, 299~307 (2009)
藤田有紀, 麻植正子, 堤之達也, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Domain-dependent interaction of eukaryotic initiation factor eIF4A for binding to middle and C-terminal domains of eIF4G	J. Biochem., 146, 359~368 (2009)
尹 康子, 他	Synthesis and determination of chirality of optically active α -cycloalkylalanines	Peptide Sci., 2008, 143~144 (2009)
箕浦克彦, 尹 康子, 石田寿昌, 他	Structural studies of [2', 6'-dimethyl-L-tyrosine1] endomorphin-2 analogues containing proline mimics	Peptide Sci., 2008, 227~228 (2009)
小林祐次, 他	Electrostatically constrained α -helical peptide inhibits replication of HIV-1 resistant to enfuvirtide	Int. J. Biochem. Cell Biol., 41, 891~899 (2009)
小林祐次, 他	Stability enhancement of cytochrome c through heme deprotonation and mutations	Biophys. Chem., 139, 37~41 (2009)
小林祐次, 他	Hyperstability and crystal structure of cytochrome C ₅₅₅ from hyperthermophilic Aquifex aeolicus	Acta Crystallogr. D Biol. Crystallogr., 65, 804~813 (2009)
小林祐次, 他	Effects of antibody affinity and antigen valence on molecular forms of immune complexes	Mol. Immunol., 47, 357~364 (2009)
土井光暢, 他	Helical-screw directions of diastereoisomeric cyclic α -amino acid oligomers	Org. Lett., 11, 1135~1137 (2009)
勝田陽介, 佐藤卓史, 齊藤睦弘, 千熊正彦, 他	Cisplatin and its analogues induce a significant change in the higher-order structure of long duplex DNA	Chem. Phys. Lett., 473, 155~159 (2009)
白井僚一, 林 恭三, 池田 潔, 井上晴嗣, 他	Identification and characterization of phospholipase A ₂ inhibitors from the serum of the Japanese rat snake, <i>Elaphe climacophora</i>	Toxicon, 53, 685~692 (2009)
白井僚一, 平野文康, 池田 潔, 井上晴嗣, 他	Up-regulation of the expression of leucine-rich α -glycoprotein in hepatocytes by the mediators of acute-phase response	Biochem. Biophys. Res. Commun., 382, 776~779 (2009)
宮本勝城, 小坂井一考, 池林里美, 土屋孝弘, 辻坊 裕, 他	Proteomic analysis of <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 grown under iron-repleted and iron-depleted conditions	Microb. Pathogenesis, 46, 171~177 (2009)

著 者	標 題	掲 載 誌
坂口 実, 馬場きみ江, 他	Inhibitory effect of (-)-epigallocatechin and (-)-epigallocatechin gallate against heregulin B1-induced migration/invasion of the MCF-7 breast carcinoma cell line	Biol. Pharm. Bull., 32, 899~904 (2009)
山沖留美, 辻野敏明, 木村捷二郎, 三野芳紀, 他	Detection of organic free radicals in irradiated Foeniculi fructus by electron spin resonance spectroscopy	J. Nat. Med., 63, 28~31 (2009)
田村 愛, 天野富美夫, 他	Dry-resistance of <i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> Serovar Enteritidis is regulated by both SEp22, a novel pathogenicity-related factor of <i>Salmonella</i> , and nutrients	Microbes Environ., 24, 121~127 (2009)
田村 愛, 西尾依里香, 藤森 功, 天野富美夫, 他	Lactoferrin inhibits the acquisition of dry-resistance of <i>Salmonella</i> spp	Biosci. Microflora, 28, 81~88 (2009)
田中麗子, 辻井寛子, 山田剛司, 天野富美夫, 他	Novel 3 α -methoxyserrat-14-en-21 β -ol (PJ-1) and 3 β -methoxyserrat-14-en-21 β -ol (PJ-2)-curcumin, kojic acid, quercetin, and baicalein conjugates as HIV agents	Bioorg. Med. Chem., 17, 5238~5246 (2009)
寺井志織, 天野富美夫, 他	Diverse pathogenicity of <i>Salmonella</i> Enteritidis clones isolated from poultry farms in chicks and BALB/c mice	J. Poult. Sci., 46, 370~376 (2009)
天野富美夫, 他	Administration of tomato and paprika beverages modifies hepatic glucose and lipid metabolism in mice: A DNA microarray analysis	J. Agric. Food Chem., 57, 10964~10971 (2009)
藤森 功, 他	The transcriptional network that controls growth arrest and differentiation in a human myeloid leukemia cell line	Nature Genetics, 41, 553~562 (2009)
藤森 功, 他	De novo synthesis, uptake, and proteolytic processing of lipocalin-type prostaglandin D synthase, β -trace, in the kidneys	FEBS J., 276, 7146~7158 (2009)
藤本陽子, 森長和裕, 安部宗将, 北村隆博, 佐久間覚	Selenite induces oxidative DNA damage in primary rat hepatocyte cultures	Toxicol. Lett., 191, 341~346 (2009)
佐久間覚, 角 裕美, 孝田哲也, 荒川行生, 藤本陽子	Effects of lipid peroxidation-derived products on the growth of human colorectal cancer cell line HT-29	J. Clin. Biochem. Nutr., 45, 171~177 (2009)
佐久間覚, 三吉栄美, 貞徳奈美子, 藤田淳子, 根来美希, 荒川行生, 藤本陽子	Monochloramine produces reactive oxygen species in liver by converting xanthine dehydrogenase into xanthine oxidase	Toxicol. Appl. Pharmacol., 239, 268~272 (2009)
藤本陽子, 藤嶽美穂代, 他	Dysfunctional very-low-density lipoprotein synthesis and release is a key factor in nonalcoholic steatohepatitis pathogenesis	Hepatology, 50, 772~780 (2009)
筒居秀伸, 杉浦孝宏, 林健太郎, 大喜多守, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Moxonidine prevents ischemia/reperfusion-induced renal injury in rats	Eur. J. Pharmacol., 603, 73~78 (2009)
杉浦孝宏, 小渕修平, 筒居秀伸, 高岡昌徳, 藤井俊秀, 林健太郎, 松村靖夫	Preventive mechanisms of agmatine against ischemic acute kidney injury in rats	Eur. J. Pharmacol., 603, 108~113 (2009)
上田恭子, 平田智子, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Preventive effect of SA13353 [1-[2-(1-adamantyl)ethyl]-1-pentyl-3-[3-(4-pyridyl)propyl]urea], a novel transient receptor potential vanilloid 1 agonist, on ischemia/reperfusion-induced renal injury in rats	J. Pharmacol. Exp. Ther., 329, 202~209 (2009)
郭 哲俊, 久保恵理子, 藤井貴和子, 西村友里, 小渕修平, 大喜多守, 松村靖夫, 他	Antihypertensive effect of French maritime pine bark extract (Flavangenol): possible involvement of endothelial nitric oxide-dependent vasorelaxation	J. Hypertens., 27, 92~101 (2009)

著 者	標 題	掲 載 誌
松本千佳, 北田研人, 山下知佳, 大喜多守, 松村靖夫, 他	Chymase plays an important role in left ventricular remodeling Induced by intermittent hypoxia in mice	Hypertension, 54, 164~171 (2009)
西田昌広, 長谷川洋一, 谷田いずみ, 仲川恵梨加, 稲次晴香, 大喜多守, 松村靖夫	Preventive effects of raloxifene, a selective estrogen receptor modulator, on monocrotaline-induced pulmonary hypertension in intact and ovariectomized female rats	Eur. J. Pharmacol., 614, 70~ 76 (2009)
車塚大輔, 松本千佳, 白川久志, 木村彩香, 北田研人, 小林加奈, 松村靖夫, 他	Dietary salt restriction activates mineralocorticoid receptor signaling in volume-overloaded heart failure	Eur. J. Pharmacol., 623, 84~ 88 (2009)
小渕修平, 新谷拓也, 杉浦孝宏, 田中亮輔, 鈴木理恵, 筒居秀伸, 藤井俊秀, 大喜多守, 松村靖夫, 他	Renoprotective effects of γ -aminobutyric acid on ischemia/reperfusion-induced renal injury in rats	Eur. J. Pharmacol., 623, 113~ 118 (2009)
北田研人, 由井 希, 松本千佳, 大喜多守, 松村靖夫, 他	Inhibition of endothelin ET _B receptor system aggravates neointimal hyperplasia after balloon injury of rat carotid artery	J. Pharmacol. Exp. Ther., 331, 998~1004 (2009)
河合悦子, 佐藤朋彦, 日比大介, 大野行弘, 幸田祐佳, 玄番宗一, 他	The effect of antioxidant on development of fibrosis by cisplatin in rats	J. Pharmacol. Sci., 111, 433~ 439 (2009)
大野行弘, 石原 静, 寺田 亮, 菊田未希, 祖父江伸匡, 河合悦子, 他	Preferential increase in the hippocampal synaptic vesicle protein 2A (SV2A) by pentylentetrazole kindling	Biochem. Biophys. Res. Commun., 390, 415~420 (2009)
大野行弘, 清水佐紀, 原田悠耶, 森下真帆, 石原 静, 他	Regional expression of Fos-like immunoreactivity following seizures in Noda Epileptic Rat (NER)	Epilepsy Res., 87, 70~76 (2009)
大野行弘, 清水佐紀, 今木淳太	Effects of tandospirone, a 5-HT _{1A} agonistic anxiolytic agent, on haloperidol-induced catalepsy and forebrain Fos expression in mice	J. Pharmacol. Sci., 109, 593~ 599 (2009)
今木淳太, 前ゆかり, 清水佐紀, 大野行弘	Therapeutic potential of α_2 adrenoceptor antagonism for antipsychotic-induced extrapyramidal motor disorders	Neurosci. Lett., 454, 143~147 (2009)
大野行弘, 他	Mutational and In Silico analyses for antidepressant block of astroglial inward-rectifier Kir4.1 channel	Mol. Pharmacol., 75, 1287~ 1295 (2009)
平野雅予, 他	IL-4-dependent induction of IgE + basophils in peripheral blood and IgE + B cells in spleen as respective indicators of allergen sensitization and a precursor of cells secreting allergen-specific IgE antibody	Microbiol. Immunol., 53, 30~ 40 (2009)
秋元庸子, 田中一彦, 他	Allergic potency of Japanese cedar pollen Cryj 1 is reduced by a low concentration of hypochlorous acid generated by electrolysis	Allergol. int., 58, 255~260 (2009)
大頭麻理子, 田中一彦, 他	Chymase inhibition provides pancreatic islet protection in hamsters with streptozotocin-induced diabetes	J. Pharmacol. Sci., 110, 459~ 465 (2009)
木村麻紀, 田中一彦, 他	Anti-atherosclerotic effects of dihomo- γ -linolenic acid in ApoE-deficient mice	J. Atheroscler. Thromb., 16, 480~489 (2009)
加藤隆児, 渡邊 麗, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Does the sedative agent, JM-1232(-) cause QT prolongation with subsequent torsades de pointes?	Life Sci., 85, 737~741 (2009)
三木春奈, 守田淳哉, 加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	Effects of sedative agent JM-1232(-) ((-)-3-[2-(4-methyl-1-piperanzyl)-2-oxoethyl]-2-phenyl-3, 5, 6, 7-tetrahydrocyclopenta [f]isonindole-1(2H)-one) on the carotid arteries of rats	J. Pharmacol. Toxicol., 4, 213 ~220 (2009)

著 者	標 題	掲 載 誌
田中一彦, 他	血清クレアチニン値低値を示す患者における輸液量とバンコマイシンクリアランスとの関係	TDM研究, 26, 72~78 (2009)
須崎範子, 定松舞子, 片上智裕, 曾我祐子, 門林孝明, 佐々木大輔, 加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦, 他	ラット肝灌流モデルにおける肝機能正常時と異常時でのlidocaine代謝の比較	循環制御, 30, 82~87 (2009)
高津千裕, 他	透析患者の二次性副甲状腺機能亢進症に対するシナカルセト塩酸塩投与時の副作用発現状況の調査	透析会誌, 42, 931~938 (2009)
河合悦子, 佐藤朋彦, 日比大介, 大野行弘, 幸田祐佳, 玄番宗一, 他	The effect of antioxidant on development of fibrosis by cisplatin in rats	J. Pharmacol. Sci., 111, 433~439 (2009)
幸田祐佳, 兼松美和, 田中孝生, 他	Protein O-glycosylation induces collagen expression and contributes to diabetic cardiomyopathy in rat cardiac fibroblasts	J. Pharmacol. Sci., 111, 446~450 (2009)
幸田祐佳, 白川久志, 山根一彦, 田中孝生, 他	チアミンの早期糖尿病性心筋症への保護効果	ビタミン, 83, 389~391 (2009)
中原良介, 土井光暢, 喜谷勇輝, 山口敬子, 藤田芳一	Crystal structure of tetraacetyl fluorescein hydrazide	Anal. Sci., 25, 21~22 (2009)
山口敬子, 中尾昌弘, 中原良介, 西岡有佳, 池田知穂, 藤田芳一	Spectrophotometric determination of quinolone antibiotics by an association complex formation with aluminum(III) and erythrosin	Anal. Sci., 25, 125~128 (2009)
山口敬子, 三馬女久美, 神野伸一郎, 松下ももか, 橋本智之, 藤田芳一	Spectrophotometric determination of copper(II) with o-bromophenylfluorone	Anal. Sci., 25, 1457~1460 (2009)
中原良介, 榎谷里美, 早川久美, 喜谷勇輝, 山口敬子, 藤田芳一	Fluorophotometric determination of hydrogen peroxide with fluorescein in the presence of cobalt(II) and reaction against other reactive oxygen species	J. Fluoresc., 19, 769~775 (2009)
藤田芳一, 他	Significance of urinary uracil measurement following administration of DPD inhibitory fluoropyrimidine (DIF) products	Jpn. J. Cancer Chemother., 36, 683~686 (2009)
藤田芳一, 他	Individual differences in rate-limiting reactions during metabolism of irinotecan hydrochloride	Jpn. J. Cancer Chemother., 36, 1135~1140 (2009)
好田稔規, 水津智樹, 藤田芳一, 他	Significance of urinary glucuronic acid measurement and its application to paclitaxel therapy	Jpn. J. Cancer Chemother., 36, 1857~1861 (2009)
神野伸一郎, 河前祐子, 伊集院怜美, 高田真吾, 山口敬子, 土井光暢, 藤田芳一	Synthesis, spectral study and crystal structure of a fluorescein derivatives, p-carboxymethylphenylfluorone	Chem. Pharm. Bull., 57, 1405~1408 (2009)
中原良介, 原小百合, 村上沙織, 大木正伸, 松村有里子, 藤本 剛, 山口敬子, 藤田芳一	レゾルシノールとの縮合反応を利用するアルデヒド類の蛍光光度定量	YAKUGAKU ZASSHI, 129, 459~463 (2009)
宮地加奈子, 中尾昌弘, 黒川 央, 富田真由, 神野伸一郎, 山口敬子, 藤田芳一, 他	薬物とアルミニウム(III)との錯生成判定のための簡易スクリーニング法	YAKUGAKU ZASSHI, 129, 1551~1558 (2009)
池田知穂, 中原良介, 西岡有佳, 黒川 央, 山口敬子, 藤田芳一	ピロガロールレッド-モリブデン(VI)錯体を用いる亜硝酸イオンの吸光光度定量	分析化学, 58, 675~679 (2009)

著 者	標 題	掲 載 誌
原田亜季, 伊藤さやか, 馬場さみ江, 好田稔規, 水津智樹, 藤嶽美穂代, 山口敬子, 藤田芳一	アシタバに含有されるカルコン誘導体を用いるチタン(IV)の 吸光光度定量	分析化学, 58, 681~686 (2009)
磯野里絵, 黒川 央, 須崎菜穂子, 富田真由, 加地真也, 山口敬子, 藤田芳一	<i>o</i> -カルボキシフェニルフルオロン-パラジウム(II)錯体を用 いる製剤中のファモチジン及びその関連薬物の吸光光度定量	分析化学, 58, 715~722 (2009)
松村有里子, 喜谷勇輝, 中原良介, 神野伸一郎, 加藤貴大, 柏田侑亮, 山口敬子, 藤田芳一	2,4-ジヒドロキシベンゾイル安息香酸を用いるレゾルシノー ル類の蛍光光度定量	分析化学, 58, 743~747 (2009)
西岡有佳, 中川善充, 中原良介, 池田知穂, 堀尾有加, 山口敬子, 藤田芳一	アデニン-銀(I)イオンとエオシンのイオン会合体の退色を利用 するヨウ化物イオンの吸光光度定量	分析化学, 58, 757~760 (2009)
佐久間覚, 角 裕美, 孝田哲也, 荒川行生, 藤本陽子	Effects of lipid peroxidation-derived products on the growth of human colorectal cancer cell line HT-29	J. Clin. Biochem. Nutr., 45, 171~177 (2009)
佐久間覚, 三吉栄美, 貞徳奈美子, 藤田淳子, 根来美希, 荒川行生, 藤本陽子	Monochloramine produces reactive oxygen species in liver by converting xanthine dehydrogenase into xanthine oxidase	Toxicol. Appl. Pharmacol., 239, 268~272 (2009)
恩田光子, 荒川行生, 他	Effects of patient-pharmacist communication on the treatment of asthma	YAKUGAKU ZASSHI, 129, 427~433 (2009)
荒川行生, 恩田光子, 他	バンコマイシン含有骨セメントにおけるバンコマイシンの溶 出挙動とセメント強度-各銘柄のバンコマイシン製剤間の比 較-	医療薬学, 35, 96~102 (2009)
恩田光子, 荒川行生, 他	成人気管支喘息における吸入指導の課題	薬剤疫学, 14, 69~77 (2009)
恩田光子, 他	ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検 討	日本病院薬剤師会雑誌, 45, 31 ~36 (2009)
杉野恵津子, 西浦千里, 箕浦克彦, 尹 康子, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Three-/four-repeat-dependent aggregation profile of tau microtubule-binding domain clarified by dynamic light scattering analysis	Biochem. Biophys. Res. Commun., 385, 236~240 (2009)
藤本陽子, 藤嶽美穂代, 他	Dysfunctional very-low-density lipoprotein synthesis and release is a key factor in nonalcoholic steatohepatitis pathogenesis	Hepatology, 50, 772~780 (2009)
原田亜季, 伊藤さやか, 馬場さみ江, 好田稔規, 水津智樹, 藤嶽美穂代, 山口敬子, 藤田芳一	アシタバに含有されるカルコン誘導体を用いるチタン(IV)の 吸光光度定量	分析化学, 58, 681~686 (2009)
楠瀬健昭	詩を読む 古池・カエル・水の音	とい, 27, 1~2 (2009)

2. 総説・解説

著 者	標 題	掲 載 誌
宇佐美吉英	Recent synthetic studies leading to structural revisions of marine natural products	Mar. Drugs, 7, 314~330 (2009)
馬場さみ江	連載 目で見る漢方薬・生薬10「当帰」	医薬ジャーナル, 45, 5~9 (2009)
山沖留美	照射生薬の検知-電子スピン共鳴 (ESR) 法を主体として-	防菌防黴, 37, 745~752 (2009)

著 者	標 題	掲 載 誌
藤 森 功	プロスタグランジンD合成酵素	日本薬理学会誌, 134, 342~343 (2009)
大喜多守, 高岡昌徳, 松村靖夫	Drug discovery for overcoming chronic kidney disease (CKD): The endothelin ET _B receptor/nitric oxide system functions as a protective factor in CKD	J. Pharmacol. Sci., 109, 7~13 (2009)
大野行弘	セロトニン5-HT _{1A} 受容体 - 多彩な機能と新たな可能性 -	臨床精神薬理, 12, 2637~2646 (2009)
大野行弘	不安障害にかかわる遺伝子と創薬へのアプローチ	分子精神医学, 9, 38~44 (2009)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	ロナセン錠2 mg・4 mg・散2%	調剤と情報, 15, 287~295 (2009)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	アバプロ錠50mg・100mg, イルベタン錠50mg・100mg	調剤と情報, 15, 523~530 (2009)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	ラミクタール錠小児用2mg・5mg ラミクタール錠25mg・100mg	調剤と情報, 15, 1021~1033 (2009)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	ナゾネックス点鼻液50 μ g 56噴霧用	調剤と情報, 15, 1401~1408 (2009)
梶本哲也, 他	Synthesis of glycosyltransferases inhibitors	Synthesis, 3179~3210 (2009)

3. 紀要・翻訳

著 者	標 題	掲 載 誌
有本正生, 宮本篤史, 中山博文, 岡野 正, 三好晴子, 岩井亜寿沙, 山中昌子, 平野史恵, 田坂文香, 大黒亜美, 市川隼人, 宇佐美吉英	Synthetic study of 4-aza-4-deoxypodophyllotoxins	大阪薬科大学紀要, 3, 39~52 (2009)
春沢信哉, 荒木理佐	ヒスタミンH ₄ 受容体リガンドの開発とその現状	大阪薬科大学紀要, 3, 65~78 (2009)
中田智子, 田路さやか, 山田剛司, 田中麗子	New lanostane terpenoids, inonotsutriols D, and E from <i>Inonotus Obliquus</i>	大阪薬科大学紀要, 3, 53~64 (2009)
土井光暢, 他	Computational study on helical structure of α , α -disubstituted oligopeptides containing chiral α -amino acids	Peptide Sci. 2008 - The proceedings of the 45th japanese peptide symposium, 149~150 (2009)
土井光暢, 他	Design and synthesis of chiral cyclic α , α -disubstituted amino acid having azido functions, and its oligopeptides	Peptide Sci. 2008 - The proceedings of the 45th japanese peptide symposium, 159~160 (2009)
山沖留美	天然物由来食品・医薬品原料の電子線殺菌処理に関する研究 - 電子スピン共鳴による照射処理生薬の検知 -	大阪薬科大学紀要, 3, 91~99 (2009)
大野行弘, 清水佐紀, 今木淳太	錐体外路系運動障害治療におけるセロトニン5-HT _{1A} 受容体の役割	大阪薬科大学紀要, 3, 79~90 (2009)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	LPSおよびCpG-DNA投与ラットにおけるdigoxin体内動態の変動	大阪薬科大学紀要, 3, 119~128 (2009)
当麻成人	水球競技の初心者指導2	大阪薬科大学紀要, 3, 31~36 (2009)

4. 著 書

著 者	標 題	出 版 社
馬場さみ江, 芝野真喜雄, 他	薬学生のための薬用植物学・生薬学テキスト	廣川書店（2009）
馬場さみ江, 谷口雅彦, 他	薬学生のための天然物化学テキスト	廣川書店（2009）
馬場さみ江, 谷口雅彦, 他	薬学生のための天然物化学	南江堂（2009）
石田寿昌	物理化学－熱力学, その基礎と応用	京都廣川書店（2009）
千熊正彦, 齊藤睦弘, 他	薬学領域の分析化学	廣川書店, 111～124（2009）
掛見正郎, 岩永一範, 宮崎 誠	広義 薬物動態学	京都廣川書店（2009）
掛見正郎, 田中一彦, 西野隆雄	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構編 「薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2009年版」	じほう（2009）
掛見正郎, 他	辻 彰編「薬剤師のための常用医薬品情報集 2009年版」	廣川書店（2009）
大野行弘, 他	セロトニン－その多彩な生理機能と薬物－	ライフサイエンス, 1～15（2009）
藤田芳一, 他	早期体験学習ガイドブック改訂版	ネオメディカル（2009）
藤田芳一, 他	薬毒物分析学辞典	廣川書店（2009）
荒川行生, 他	わかりやすい薬学生のための実務実習事前学習テキスト	ネオメディカル（2009）
荒川行生, 他	病院薬局研修ガイドブック	ハイサム（2009）
恩田光子, 他	薬事法規・制度マニュアル	南山堂（2009）
恩田光子, 他	これからの社会薬学－社会の変化と, 対応する薬剤師への期待－	南江堂（2009）
恩田光子, 他	新人薬剤師・薬学生のための医療安全学入門－調剤過誤防止から副作用の早期回避まで－	薬ゼミ情報教育センター（2009）
恩田光子, 他	薬学生のための薬剤経済学	廣川書店（2009）
荒川行生, 恩田光子, 他	グラフィックガイド 薬剤師の技能 理論まると実践へ	京都廣川書店（2009）
恩田光子, 他	わかりやすい薬事関係法規・制度	廣川書店（2009）

5. 特 許

出 願 者	標 題	特 許 番 号
浦田秀仁, 他	カテコール基が導入されたジオキサビシクロ〔3.3.0〕オクタン誘導体の製造方法及びその製造のための中間体	特開2009-13174（2009）

図書課

1. 学術雑誌の電子化推進について

本学図書館では、2006年から学術洋雑誌の購入にあたっては冊子体を中止し電子ジャーナルに順次移行してきました。

2010年4月現在、ACS（米国化学会）、Elsevier社、Nature出版グループ、Ovid社、Springer社、Wiley-Blackwell社の6つのコンソーシアムに参加し有料分、無料分をあわせて約7,000タイトルの電子ジャーナルが常時閲覧できるようになっています。

図書館ホームページ（学内サービス）では、電子ジャーナルをより効率良く利用できるように学術雑誌目録の項目に「電子ジャーナル購読可能年」を新たに加えてバックファイルを含めて電子ジャーナルの閲覧推進を図っています。

電子ジャーナルは図書館まで足を運ばなくても各研究室のパソコンから簡単に利用できるメリットがあります。教育・研究に大いに役立ててください。

2. 「教科書・参考書コーナー」の設置について

図書館では、これまで「教科書・参考書」についても他の書籍と区別せずに閲覧室の所定の書架に配架していましたが、このたび利用者の便宜を図るため図書館4階の一角に各年次別の「教科書・参考書コーナー」を設置しました。

同コーナーの図書は館内閲覧限定とし、貸出禁止にしていますが、学生にとって「教科書・参考書」が1カ所に集めて配架されているメリットは大きく、利用者から大変好評を得ています。



3. 「新着図書・DVD情報」の案内について

平成22年5月より、毎月入荷している単行本、文庫・新書、視聴覚資料から主なものを「新着図書・DVD情報」として各年次の掲示板に案内し、図書館まで足を運ばなくても適宜入荷状況が分かるようにして、利用者の便宜を図っています。また、図書館ホームページ（学内サービス）で

新着図書・DVD情報（9月分）

区 分	タ イ ト ル	著 者
図 書	薬の選び方を学び実践するOTC薬入門	上村 直樹
〃	絶対わかる抗菌薬はじめての一步	矢野 晴美
〃	薬学生・薬剤師のための処方解析トレーニング集	門林 宗男
〃	マンガでわかる統計学(因子分析編、回帰分析編)	高橋 信
〃	図解PubMedの使い方	岩下 愛
〃	心の野球(超効率的努力のススメ)	桑田 真澄
〃	トリセツ・カラダ(カラダ地図を描こう)	海堂 尊
〃	夜行観覧車	湊 かなえ
〃	小暮写真館	宮部 みゆき
DVD	目でみる解剖と生理(神経系、循環系、消化系他)	
〃	病気の成因・病態と治療(循環の領域、血液の領域他)	
〃	プリズン・ブレイク(Season 2)	

◆新着図書・DVDコーナーの書架にない場合は貸出中ですので、受付カウンターにおいて予約ができます。

は、図書・DVDの入荷日より30日間は「新着資料から検索」により簡単に入荷状況を調べることができます。

図書館では勉学の参考となる専門書、DVD（学術関係）、読書の秋に最適な教養図書やベストセラー本など、幅広いジャンルの図書を多数取り揃えていますので、大いに利用してください。

4. 図書館ホームページ（学内サービス）のリニューアルについて

このたび、図書館ホームページをリニューアルしました。画面上の8つのアイコンの主な内容・特色は次のとおりです。

①蔵書検索

本学図書館が所蔵している図書を「検索キーワード」により簡単に検索できます。

②電子ジャーナル

本学図書館が利用できる電子ジャーナルをアルファベット順にリストアップしています。

③学術雑誌目録

本学図書館所蔵の学術雑誌（欧文・和文）のリストで、電子ジャーナルはリンクを貼り付けています。

④データベース

●「SciFinder Scholar」

医学、薬学などの科学情報を必要とする研究者が利用することを想定したオンライン検索サービスです。

●「医学中央雑誌（Web版）」

国内発行の定期刊行物約5,000誌から収録した医学文献情報データベースです。

●「Iyaku Search Plus」

日本医薬情報センターが提供する国内外の医薬品情報に関するデータベースです。

●「第一法規法情報データベース」

本学で購入している法令集をWebで検索することができます。

●「官報情報検索サービス」

政府刊行物の「官報」をWebで検索することができます。

⑤お知らせ

臨時休館や開館時間の変更などの図書館情報をお知らせしています。

⑥文献取り寄せ

本学図書館で所蔵していない学術雑誌論文の取り寄せを受け付けています。

⑦利用案内

利用資格、貸出冊数・期間などの図書館利用の留意点を案内しています。

⑧購入希望図書

購入希望の図書・DVDなどを随時受け付けています。

薬 用 植 物 の 紹 介

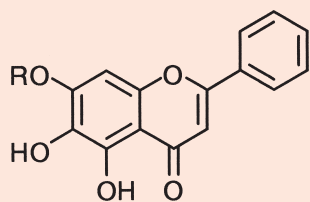
コガネバナ *Scutellaria baicalensis* GEORGI

薬用植物園長 馬場きみ江

コガネバナは高さ30～60cmのシソ科の多年草で、日本には野生せず、朝鮮半島から中国東北部（河北、内蒙古、山西、山東、甘粛、陝西省）、モンゴル、東シベリアからバイカル湖のあたりまでの乾燥した山野に広く分布している。種小名のバイカレンシスはこの地名に由来している。茎は四稜形で、基部から多数分枝し横に這い、上部は直立する。根は円錐形で、皮をむくと鮮やかな黄金色に輝いているので、和名でコガネバナと名付けられた。葉は対生でほとんど無柄である。6月～9月頃に茎の先に花穂をつけ、赤紫色から青色に近い青紫色の唇形花を開く。*Scutellaria*属の植物は世界中に200種ほどあるが、日本でよく見られるタツナミソウ*Scutellaria indica*は、花の形状がコガネバナとよく類似している。この和名は花のようすが泡立つ波に似ていることに由来する。コガネバナの太くなった根の周皮（コルク層）を除いたものが生薬の黄芩（オウゴン）である。修治は新鮮な根を掘り出した後、2～3割程度の乾燥で、外皮を乾燥させ、編み目のある容器で根どうしを磨く工程を行い皮層を脱落させ、これを再度繰り返して行き表面が黄色くなるまで続けて、黄色く質の堅い生薬に仕上げる。黄芩はにおいがなく、味はわずかに苦いが、質が重く、苦みの強いものが良品とされる。近年は資源の枯渇が進み、中国、河北省を中心に栽培されている栽培黄芩が市場に出回っている。しかし、現在産出される黄芩は生育期間が短く、小形で産地間の特色が無くなりエキス含量、成分（バイカリン）含量など野生黄芩との品質差異が懸念されている。黄芩は古くは中国の「馬王堆医書」「武威医簡」「敦煌漢簡」の中の処方すでに用いられ、「神農本草経」の中品に収載されている。「諸熱、黄疸、腸澼・泄利を治し、水を逐い、血閉を下す。悪瘡・疽蝕・火傷」と記されている。古来より、健胃消化薬、瀉下薬、解熱鎮痛消炎薬、消炎排膿薬、尿路疾患薬、止血薬、血圧降下薬、精神神経用薬などに見なされる漢方方剤に頻繁に配合されている。成分にフラボノイドのバイカリン、バイカレイン、オウゴンやフェニルエタノイドのマルチノシドを含み、バイカリン、バイカレインに抗アレ



ギー作用、血小板活性化因子（PAF）産生抑制作用、ライソゾーム酵素遊離阻害作用、細胞内c-AMP濃度の有意な上昇作用、アスピリンに匹敵する抗炎症作用、血管透過性抑制作用、利胆作用、利尿作用、抗菌・抗ウイルス作用など多量の薬理作用が認められている。黄芩が配合されている代表的な漢方処方に、小柴胡湯、柴胡桂枝湯、黄芩湯、三黄瀉心湯、半夏瀉心湯、清上防風湯、乙字湯、二朮湯、防風通聖散などがある。このうち六病位の少陽病に適応される小柴胡湯は慢性肝炎における肝機能障害改善薬として、医療用漢方エキス製剤中で際立って多く処方されてきた。このような状況のもと、1994年～2000年の間に小柴胡湯とインターフェロン製剤、インターフェロン α 、インターフェロン β の併用療法で188人が間質性肺炎を発症し、うち22人の死者がでた。間質性肺炎の発症機序にはいくつかの要因（薬剤性）が挙げられている。しかし、漢方処方由来種々の生薬成分が含まれているため、その作用機序は極めて複雑であることから明確な結論は出ていないものの、現在までのところ黄芩中のフラボノイドがこの原因化合物の一つであると考えられている。このような背景から、2001年に厚生労働省から「小柴胡湯と間質性肺炎に関する安全情報」として①インターフェロン製剤を投与中の患者、②肝硬変、肝ガンの患者、③慢性肝炎における肝機能障害で血小板数10万/mm³以下の患者には禁忌であるとの通達が出された。さらに、黄芩を含む漢方製剤（小柴胡湯、黄連解毒湯、柴胡桂枝乾姜湯、柴胡桂枝湯、柴苓湯、柴朴湯、辛夷清肺湯、大柴胡湯、半夏瀉心湯など）では単独投与においても間質性肺炎発症の報告がある。一方、黄芩を含まない漢方製剤、大建中湯、六君子湯においても発症の報告があることから、原因究明にはまだまだ時間を要するものと思われる。



バイカリン R=GlcA
バイカレイン R=H